

インテリジェント・パワー・ディストリビューション・ユニット

CentreCOM® PDU800

ユーザーマニュアル

CentreCOM[®] **PDU800**

ユーザーマニュアル

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2000 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

安全のために



必ずお守りください

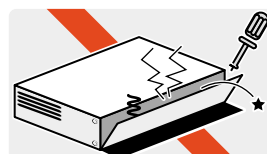


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

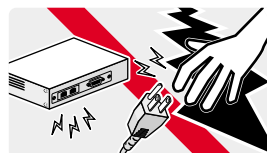
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

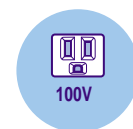
内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

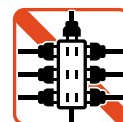
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100V で動作します。



電圧注意

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

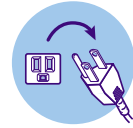
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



取り扱いはていねいに

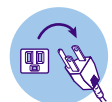
落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

- ・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る



シンナー
類不可

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM PDU800をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、独立制御可能な電源出力コンセントを8個装備したインテリジェント・パワー・ディストリビューション・ユニットです。

本製品の使用により、ルーター、スイッチ、プリンターサーバーなどのハングアップ時に、遠隔から個別にリポートすることができます。

10BASE-Tポートを1ポート装備しているため、LAN経由での制御が行うことができます。また、SNMPによる管理が可能なSNMPエージェントにより、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。さらに、内蔵されたソフトウェアによって、ターミナルポートからの簡単な設定や診断も可能です。

RS-232および接点信号に対応したインターフェースで、各社UPSと連動が可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン






2000年 5月 Rev.A 初版

このマニュアルについて

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン	意味
 ヒント	重要な情報や指示を示します。
 注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
 警告	人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
 手順	操作手順を示します。
 参照	参照ページ・参照項目を示します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 ソフトウェアの設定

本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定、コマンド入力に関する基本的な操作方法、使用できるコマンドの機能と設定方法について説明しています。

3 付録

トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

目次

ご注意	ii
商標について	ii
電波障害自主規制について	ii
安全のために	iii
このマニュアルについて	v
表記規則	vi
マニュアルの構成	vii
1 はじめに	1-1
1 梱包内容	1-2
2 特長	1-3
3 各部の名称と働き	1-4
前面	1-4
背面	1-5
側面	1-6
ステータス表示 LED	1-7
ターミナル設定スイッチ	1-8
4 設置	1-9
設置するときの注意	1-9
設置方法	1-9
5 接続	1-11
電源ケーブルを接続する	1-11
通信ケーブルを接続する	1-13
LAN に接続する	1-15
2 ソフトウェアの設定	2-1
1 操作の流れ	2-2
2 ターミナルソフトの設定	2-3
VTTERM の設定手順	2-3
Windows 3.1 の「ターミナル」の設定手順	2-4
Windows 95/98、Windows NT の「ハイパーターミナル」の設定手順	2-6
3 メニューの設定	2-9
メニュー項目	2-9
メニューの操作方法	2-10
UPS の設定	2-11
ネットワークの設定	2-14
その他の設定	2-15
メニュー設定の終了	2-15

4	基本設定	2-16
	コンソールでの入力操作	2-16
	エラーメッセージについて	2-16
	コマンドライン書式と表記の意味	2-16
	ヘルプの使いかた	2-17
	ログインパスワードを設定する	2-18
	日付と時刻を設定する	2-18
	電源出力コンセントの ON/OFF を行う	2-19
	タイマー設定を行う	2-21
	ネットワークの設定を行う	2-24
	リモートシェルでコマンドを実行する	2-25
5	コマンドリファレンス	2-27
3	付録	3-1
<hr/>		
1	トラブルシューティング	3-2
	トラブルと思ったら	3-2
2	仕様	3-5
	コネクタ仕様	3-5
	本製品の主な仕様	3-8
4	保証とユーザーサポート	4-1
<hr/>		
1	保証とユーザーサポート	4-2
	保証	4-2
	ユーザーサポート	4-2
2	調査依頼書のご記入にあたって	4-3
	使用しているハードウェアについて	4-3
	お問い合わせ内容について	4-3
	ネットワーク構成について	4-3
	調査依頼書 (CentreCOM PDU800)	4-5

1

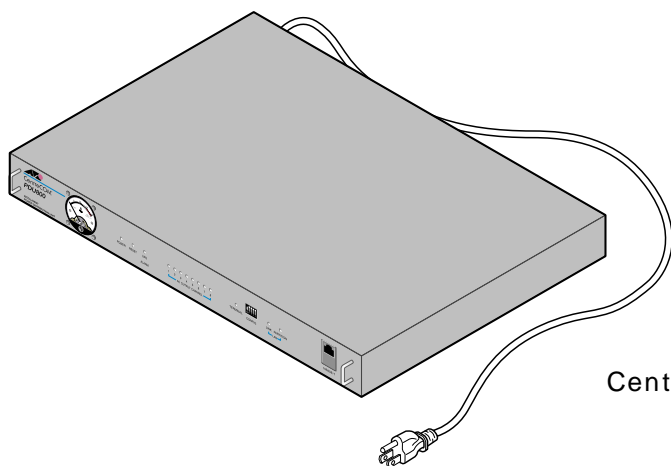
はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

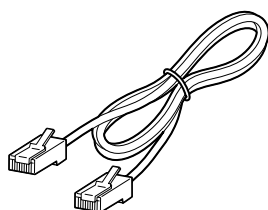
1 梱包内容

1

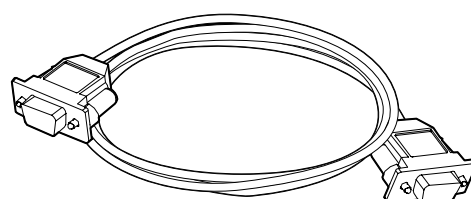
はじめに



CentreCOM PDU800本体 1台



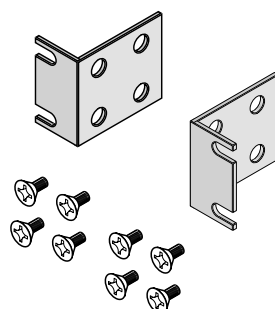
UTPストレートケーブル(2m) 1本



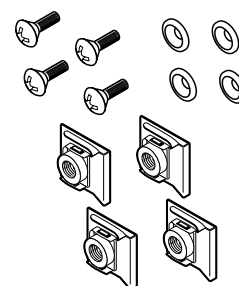
RS-232クロスケーブル(1.8m) 1本



ユーザーマニュアル(本書)



ブラケット 2個
ブラケット用ネジ 8個



ラック用ネジ 4個
ラック用座金 4個
クリップナット 4個

製品保証書(1年)
ユーザー登録カード
シリアル番号シール

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

2 特長

8 個の電源出力コンセントを装備

10BASE-T ポートを 1 ポート装備

UPS 接続用ポートを RS-232 と接点信号の 2 ポート装備

負荷電流が一目でわかる電流計を装備

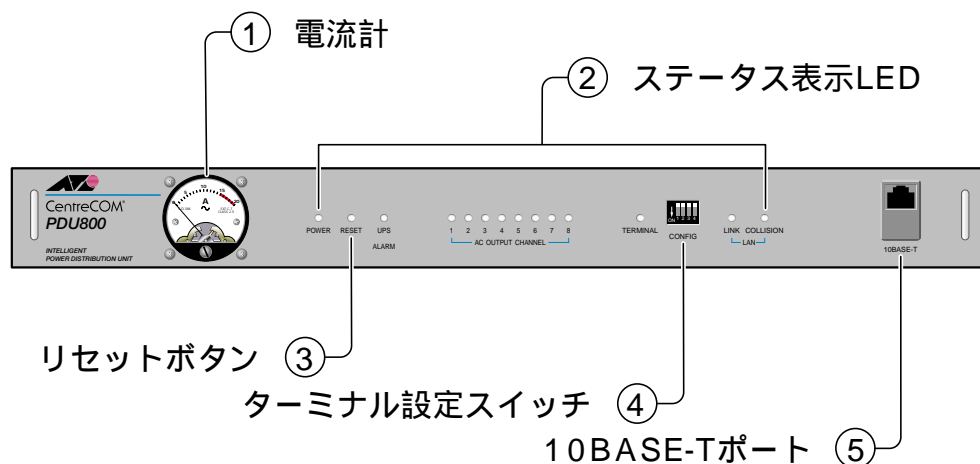
RS-232 で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能

rsh(リモートシェル)コマンドにより、遠隔からの制御が可能

SNMP エージェント機能による監視が可能

3 各部の名称と働き

前面



1


はじめに

電流計

接続機器の入力電流の合計を A (アンペア) で表示するための電流計です。


ステータス表示 LED

システムの状態をモニターするための LED インジケータです。

 1-7 ページ「ステータス表示 LED」


リセットボタン

本体を再起動するためのボタンです。先の細い棒などで押します。

 鋭利なもの(縫い針など)や通電性のある物で、リセットボタンを押さないでください。

ターミナル設定スイッチ

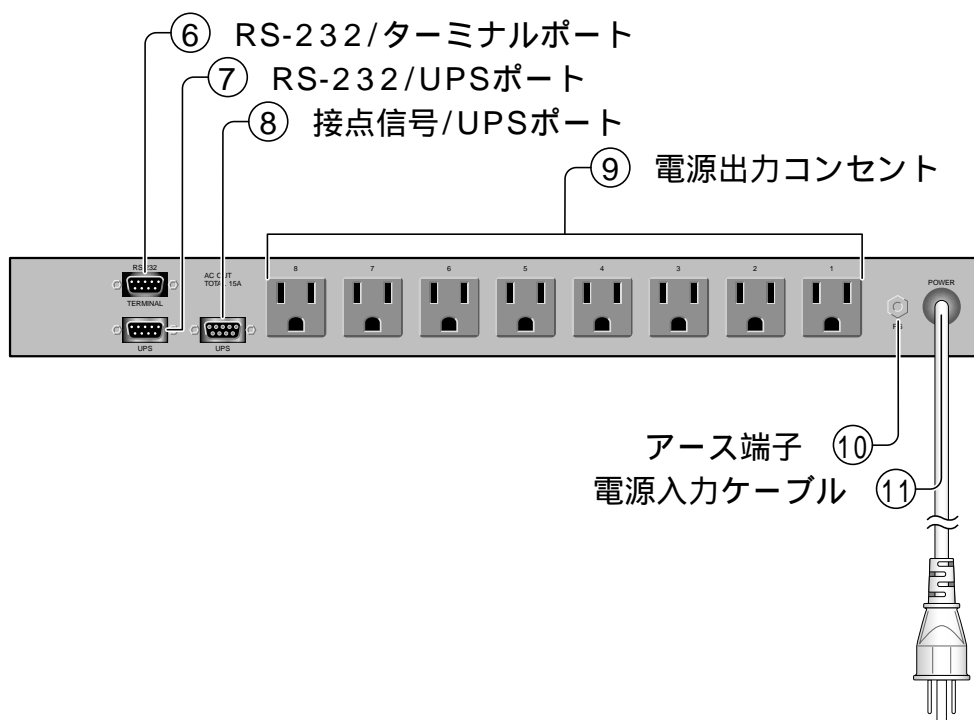
RS-232/ターミナルポートの通信速度を設定するためのDIPスイッチです。出荷時設定はすべてOFF(上側)です。

 1-8 ページ「ターミナル設定スイッチ」

10BASE-T ポート

10BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクタです。このポートは HUB やスイッチの MDI-X ポートとストレートケーブルで接続することができるカスケード (MDI) ポートです。

ケーブルはカテゴリ-3以上のUTPケーブルを使用します。なお、同梱のUTPケーブルはカテゴリ-5のストレートケーブルです。PCやワークステーションと接続する場合は、別途クロスケーブルを用意してください。



RS-232/ターミナルポート

本体とコンソールターミナルを接続して、ソフトウェアへアクセスするためのコネクタです。コネクタの形状はDSUB 9Pin オスです。ケーブルは同梱のRS-232クロスケーブルを使用します。

RS-232/UPSポート

本体とUPSを接続して、RS-232シリアル信号通信を行うためのコネクタです。コネクタの形状はDSUB 9Pin オスです。

現用のUPSがRS-232シリアル信号に対応している場合は、このポートを使用してください。

ケーブルは同梱されていません。UPSのマニュアルでコネクタの内容を確認の上、別途ご用意ください。

接点信号/UPSポート

本体とUPSを接続して、接点信号入出力を行うためのコネクタです。コネクタの形状はDSUB 9Pin メスです。

現用のUPSが接点信号に対応している場合は、このポートを使用してください。

ケーブルは同梱されていません。UPSのマニュアルでコネクタの内容を確認の上、別途ご用意ください。

電源出力コンセント

AC電源を出力するための8つのコンセントです。HUBやスイッチ、ルーターなど接続する機器のAC入力プラグを接続します。

3 各部の名称と働き

アース端子

AC入力プラグが接地タイプでない機器のアース線を接続するための端子(M4)です。

電源入力ケーブル

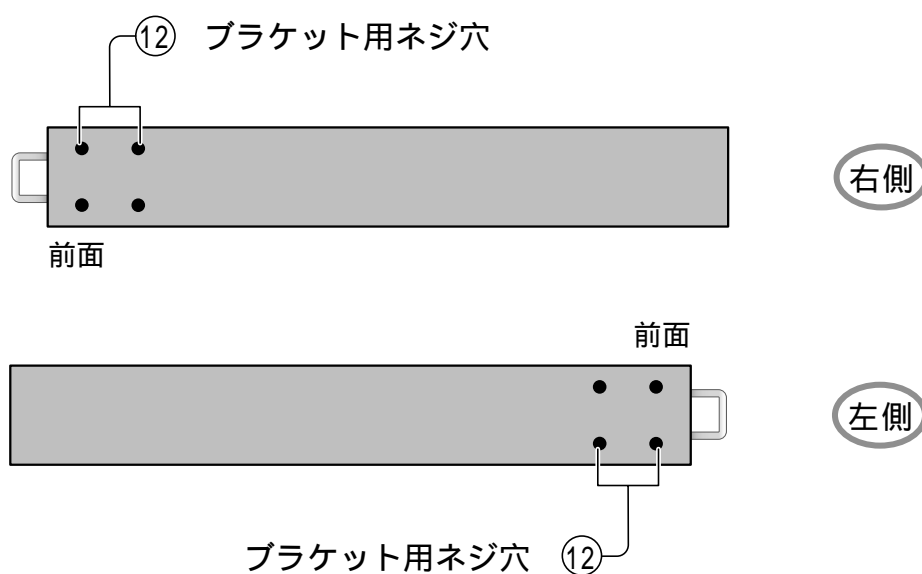
AC電源を入力するためのケーブルです。

本製品を単体で使用する場合は電源コンセント(商用電源)に、UPSと連携させる場合はUPSの電源出力コンセントに接続します。

1


はじめに

側面



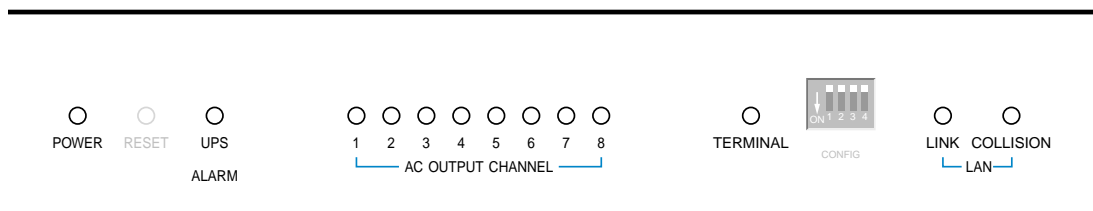
ラック用ブラケット

本体をEIA規格の19インチラックへ取り付けるためのブラケットです。


 1-10 ページ「19インチラックへの取り付け」


ステータス表示 LED

本体前面ステータス表示 LED の内容は以下のとおりです。



LED	色	状態	表示内容
POWER	緑	点滅	本体に電源が供給されています。
		消灯	本体に電源が供給されていません。
UPS ALARM	赤	点灯	UPSが停電状態です。
		消灯	UPSは通常運転状態です。
AC OUTPUT CHANNEL 1-8	橙	点灯	電源出力コンセント（1～8）がONの状態です。
		消灯	電源出力コンセント（1～8）がOFFの状態です。
TERMINAL	橙	点灯	RS-232/ターミナルポートを介して通信を行っています。
		消灯	RS-232/ターミナルポートを介して通信を行っていません。
LINK	緑	点灯	10BASE-Tポートのリンクが確立しています。
		消灯	10BASE-Tポートのリンクが確立していません。
COLLISION	赤	点灯	セグメント上でコリジョンが発生しています。
		消灯	セグメント上でコリジョンは発生していません。

- 
 本製品とUPSをRS-232インターフェースで接続している場合は、必ず、[UPS Configuration]メニューでUPSのメーカーとモデル名を指定してください。UPSのメーカーとモデル名を指定していないと、UPSが停電状態（バックアップ運転）になってもUPS ALARM LED点灯しません。本製品とUPSを接点信号インターフェースで接続している場合は、[UPS Configuration]の[UPS Manufacturer]で「GENERIC CONTACT TYPE」を選択してください。

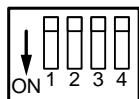

 2-9 ページ「3 メニューの設定」

3 各部の名称と働き

ターミナル設定スイッチ

本体前面「ターミナル設定スイッチ」の内容は以下のとおりです。出荷時設定はすべてOFF(上側)です。

スイッチの設定は、本体リセット後に有効となります。



ターミナル設定スイッチ	OFF (上側)	ON (下側)
1: ボーレート (ポートの通信速度)	2400bps	9600bps
2: 保守用		
3: 未使用		
4: 未使用		

スイッチ 1:

本体前面「RS-232/ターミナルポート」のボーレート(通信速度)を設定します。

OFF 2400bps

ON 9600bps

スイッチ 2:

保守用のスイッチですので、使用しないでください。

OFF

ON

スイッチ 3:

このスイッチは使用していません。

スイッチ 4:

このスイッチは使用していません。

i ターミナル設定スイッチの設定状況は、RDSW コマンドで画面表示することができます。

参照 2-42 ページ「30 RDSW ターミナル設定スイッチの表示」

4 設 置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ずiiiページの「安全のために」をよくお読みください。

設置場所については、次の点にご注意ください。

電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。

テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

本体の上に物を置かないでください。

直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

1

はじめに

設置方法

設置方法には、水平な場所に設置する方法と、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法があります。

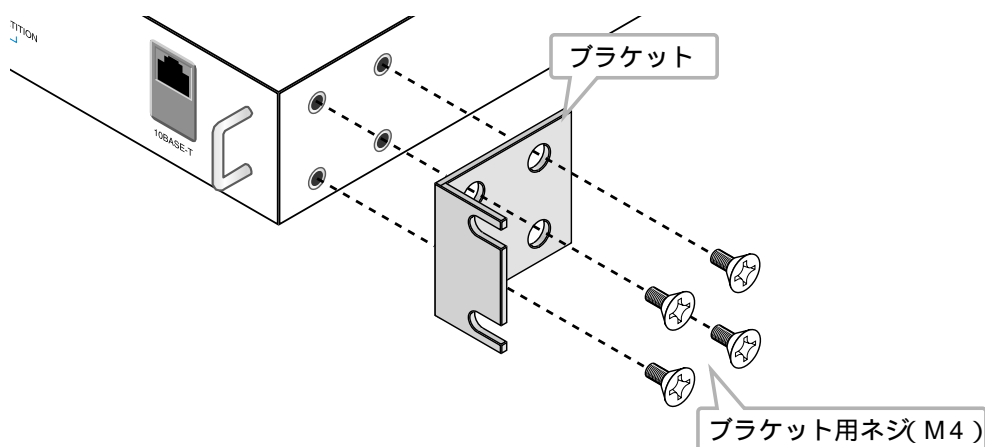
▶ デスクの上など水平な場所への設置

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 水平で安定した場所に設置します。

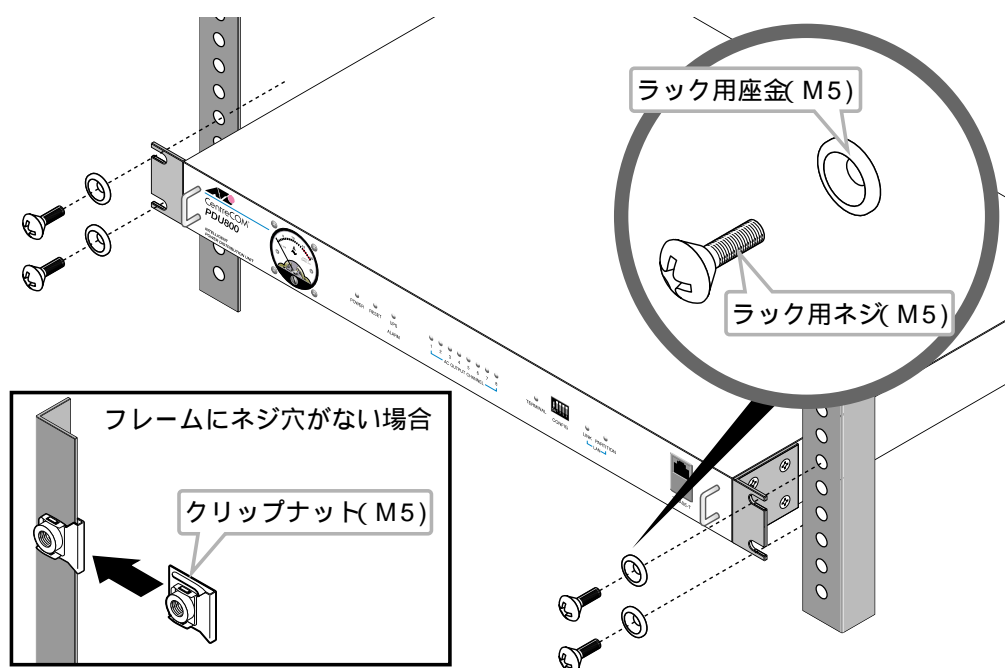
▶ 19 インチラックへの取り付け

本体両側面のラック用ブラケットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 本体側面にブラケットを合わせ、ブラケット用ネジでしっかりと固定します。



- 3 19インチラックの希望する位置に本体を合わせて、ラック用ネジとラック用座金でしっかりと固定します。
19インチラックのフレームにネジ穴がない、または19インチラックのネジ穴と同梱のラック用ネジの形状が合わないなどの場合は、同梱のクリップナットを使用してください。

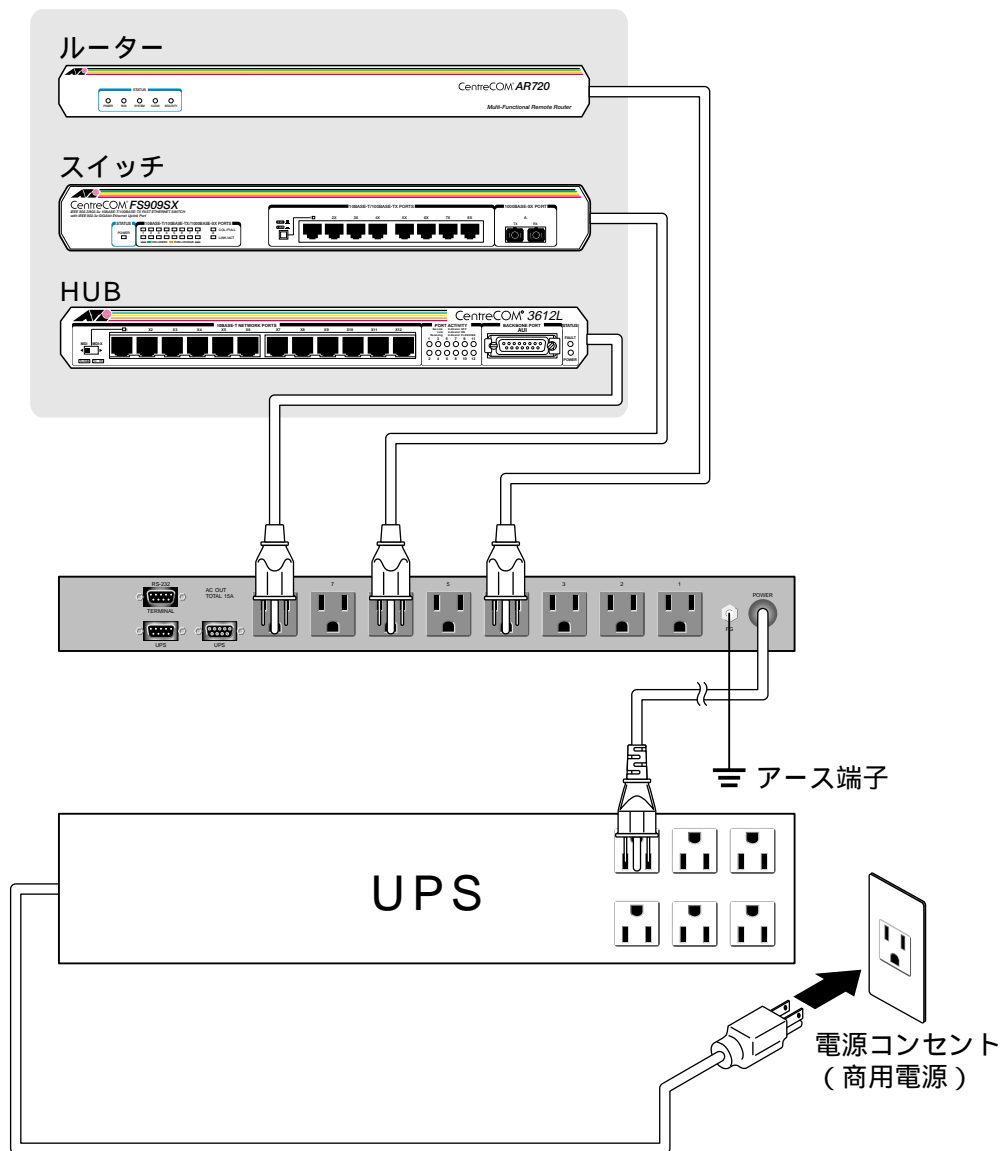


5 接 続

電源ケーブルを接続する

本製品、ネットワーク機器、およびUPSの各電源ケーブル接続例を以下に示します。

接続機器の入力電流は合計15 A以下



⚡ 本製品および接続する機器のアース端子をアースに接続してください。故障や漏電があった場合に感電する恐れがあります。また、アース接続せずに本製品と接続機器を同時に触れると感電することがあります。

! 本製品の電源入力ケーブルを本製品の電源出力コンセントに差し込まないでください。故障の原因となる恐れがあります。

1

はじめに



本体の起動

- 1 本体背面の電源出力コンセントに、HUBやスイッチ、ルーターなど接続する機器のAC入力プラグを接続します。



本製品の最大出力電流は15Aです。入力電流15A以上の機器を接続しないでください。また、接続する機器の入力電流の合計は15A以下となるようにしてください。電源配線が発熱する恐れがあります。

- 2 本体背面の電源入力ケーブルをUPSの電源出力コンセントに接続します。本製品を単体で使用する場合は、電源コンセント(商用電源)に接続します。



本製品に電源スイッチはありません。

- 3 UPSの電源入力ケーブルを電源コンセント(商用電源)に接続します。



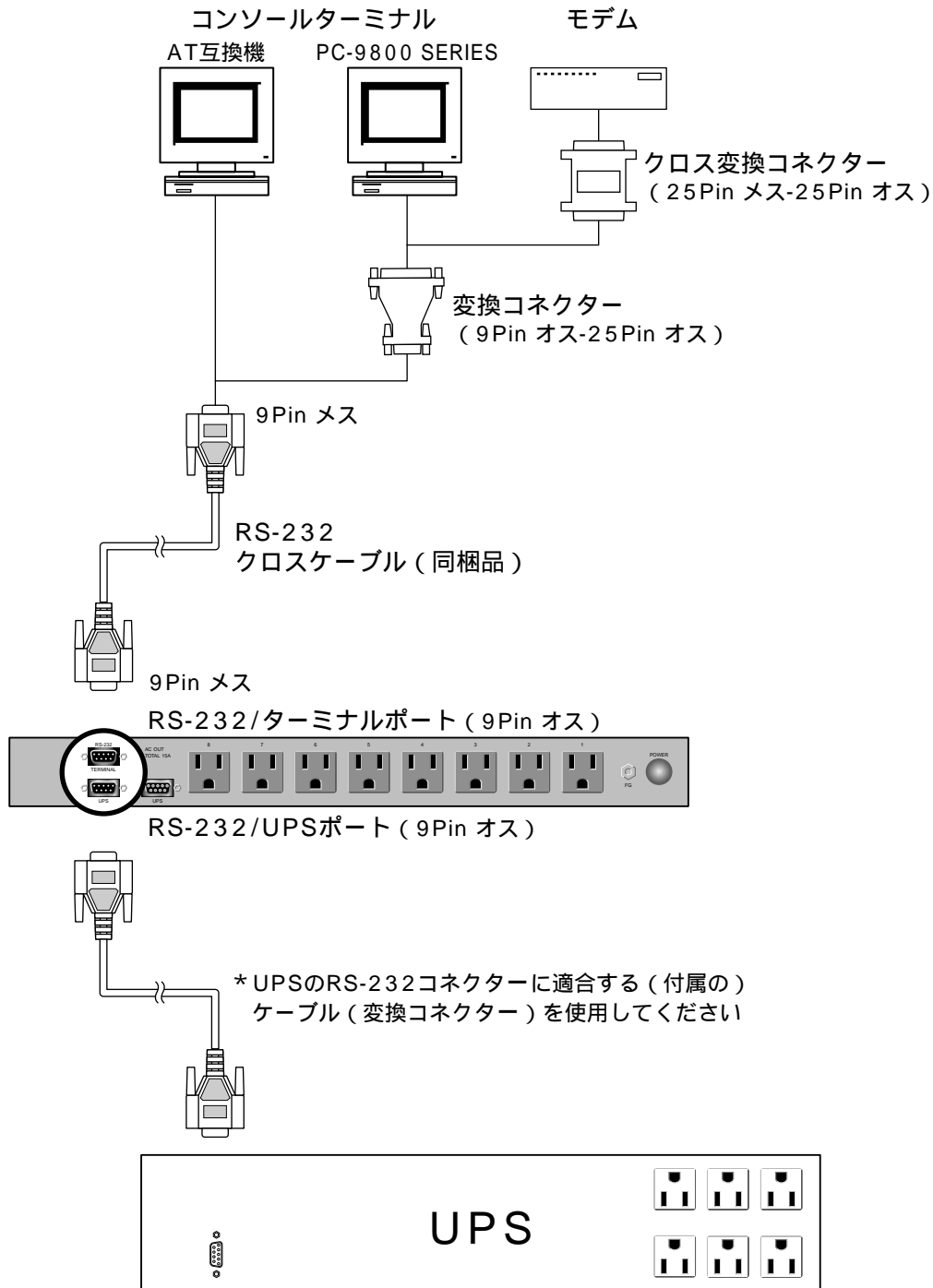
指定された電圧以外の電源コンセント(商用電源)を使用しないでください。発熱による発火や、故障の恐れがあります。

- 4 本体に電源が供給されると、本体前面POWER、UPS ALARM、AC OUTPUT CHANNEL、TERMINALの各LEDが24回点滅します。
- 5 POWER LEDが早い点滅、UPS ALARM LEDが点灯した状態がしばらく続きます。
- 6 UPS ALARM LEDが消灯、POWER LEDが点滅状態になり、通常運転となります。

通信ケーブルを接続する

コンソールターミナルやモデムを使用して、ソフトウェアにアクセスする場合は、本体背面RS-232/ターミナルポートとコンソールターミナル/モデム側のRS-232コネクタを接続します。

また、接続したUPSの停電情報やステータスを取得する場合は、本体背面RS-232/UPSポートとUPS側のRS-232コネクタを接続します。




■ コンソールターミナル / モデムとの接続

コンソールやモデムを使用してソフトウェアにアクセスする場合は、本体背面 RS-232 / ターミナルポートとコンソールターミナル / モデム側の RS-232 コネクタを接続します。

コンソールは、VT-100 互換のターミナルエミュレータを実行する RS-232 コネクタ付き PC およびワークステーション、または RS-232 コネクタ付き非同期ターミナルを使用します。


ケーブルは同梱の RS-232 クロスケーブル (9Pin メス 9Pin メス) を使用します。接続する機器に合わせて、別途変換コネクタを用意してください。


 ターミナルエミュレーションソフトの設定については、次の章で説明します。


■ UPS との接続

接続した UPS から情報を取得したり管理を行う場合は、本体背面 RS-232 / UPS ポートと UPS 側の RS-232 コネクタを接続します。

ケーブルは同梱されていません。UPS に付属の RS-232 ケーブルを使用するか、UPS のマニュアルでコネクタの内容を確認の上、別途ご用意ください。

 現用の UPS が接点信号に対応している場合は、本体背面接点信号 / UPS ポートと UPS 側の接点信号コネクタを接続します。
ケーブルは同梱されていません。UPS のマニュアルでコネクタの内容を確認の上、別途ご用意ください。

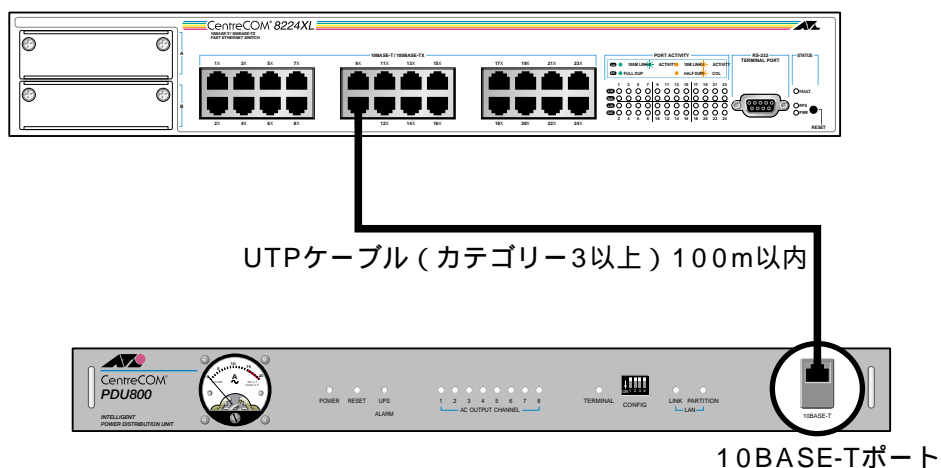
 本製品と UPS を RS-232 インターフェースで接続している場合は、必ず、メニュー内の [UPS Configuration] で UPS のメーカーとモデル名を指定してください。UPS のメーカーとモデル名を指定していないと、UPS が停電状態 (バックアップ運転) になっても UPS ALARM LED 点灯しない、UPS 関連のコマンドがエラーになるなどの問題が発生します。
本製品と UPS を接点信号インターフェースで接続している場合は、[UPS Configuration] の [UPS Manufacturer] で「GENERIC CONTACT TYPE」を選択してください。

 2-9 ページ「3 メニューの設定」

LAN に接続する

リモートシェル (rsh) コマンドを使用して、ネットワーク経由でコマンドを実行したり、SNMP マネージャーから本製品を監視する場合は、本体前面 10BASE-T ポートを使用して、LAN のネットワークに接続します。

スイッチ/HUB



本製品の 10BASE-T ポートは HUB やスイッチの MDI-X ポートとストレートケーブルで接続することができるカスケード (MDI) ポートです。ケーブルはカテゴリ-3以上の UTP ケーブルを使用します。なお、同梱の UTP ケーブルはカテゴリ-5 のストレートケーブル (2m) です。PC やワークステーションと接続する場合は、別途クロスケーブルを用意してください。ケーブルの長さは 100m 以内と規定されています。

1

はじめに

2

ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定、コマンド入力に関する基本的な操作方法、使用できるコマンドの機能と設定方法について説明します。

1 操作の流れ

STEP 1 コンソールターミナルを接続する

同梱の RS-232 クロスケーブルで、本体背面の RS-232/ターミナルポートとコンソールターミナル側の RS-232 コネクターを接続します。



1-13 ページ「通信ケーブルを接続する」

STEP 2 ターミナルソフトを設定する

コンソールターミナル側のターミナルエミュレーション・ソフトの設定を、本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。



2-3 ページ「2 ターミナルソフトの設定」

STEP 3 ログインする

「ユーザー名」を入力してログインします。ユーザー名はデフォルトで「root」が設定されています(大文字・小文字を区別します)。パスワードはデフォルトで Disable (無効) に設定されています。

```
User: root      ... 「root」と入力して[Enter]キーを押します。
```

STEP 4 メニューで設定を行う

メニュー画面で接続している UPS の設定とネットワークの設定を行います。

```
PDU800 > menu      ... プロンプトの後に「menu」と入力して[Enter]キーを押します。
```

メインメニューが表示されますので、各項目を設定します。



2-9 ページ「3 メニューの設定」

終了したら、メインメニューから[(4) Exit]を選択して、コマンドラインに戻ります。

STEP 5 コマンドラインで設定を行う

コマンド入力で、電源出力コンセントの制御やタイマー運転などその他の設定を行います。



2-16 「4 基本設定」 2-27 ページ「5 コマンドリファレンス」

```
PDU800 >      ... プロンプトの後にコマンドを入力します。
```

STEP 6 ログアウトする

コンソールターミナルでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
PDU800 > exit      ... プロンプト「exit」と入力して[Enter]キーを押します。
```

2

ソフトウェアの設定

2 ターミナルソフトの設定

PQ(ワークステーション)をターミナルとして使用するためのターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして、次の3つの設定方法を説明します。
(コンソール用RS-232ストレートケーブルは、COM1に接続することとします。)

弊社VTTERM

Windows 3.1 標準プログラム「ターミナル」

Windows 95/98、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」

VTTERM の設定手順

弊社VTTERM(VT-Kit)をご使用の場合、DOSプロンプトから次のコマンドを入力して、**Enter**キーを押します。

```
C: ¥>VTTERM
```

VTTERM が起動し、初期画面が表示されます。

VTTERMのデフォルトの設定は、本製品の通信条件を満たしていますので、特に設定をする必要はありません。

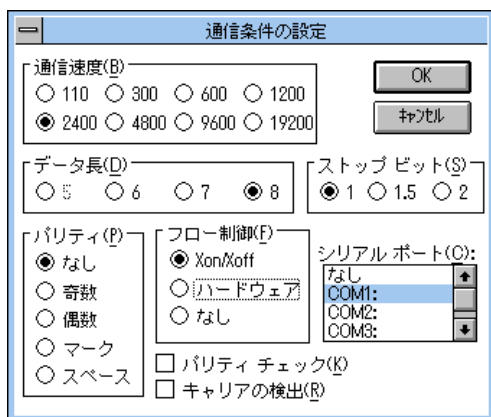
Enterキーを数回押すと、ログイン画面が表示されます。

2 ターミナルソフトの設定

Windows 3.1 の「ターミナル」の設定手順

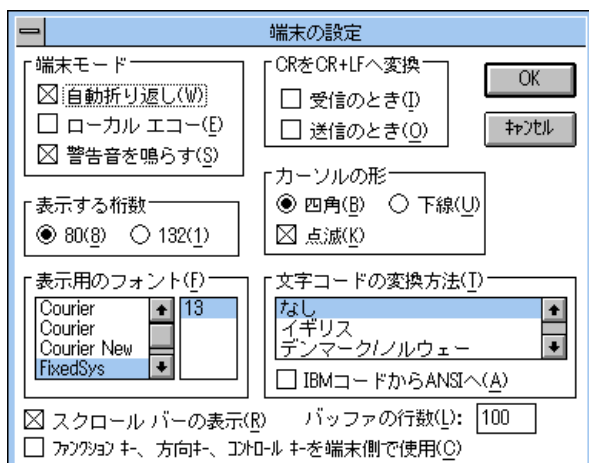
Windows 3.1 が動作する PC では、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ターミナル」(Terminal.exe)を使用することができます。

- 1 [プログラムマネージャ] -> [アクセサリ] 内の「ターミナル」をダブルクリックします。
- 2 [設定]メニューから[通信条件]を選択すると、「通信条件の設定」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。

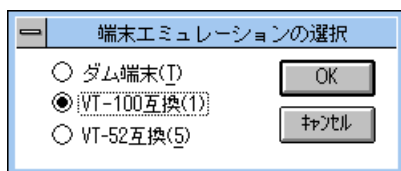


i 本製品は 2400bps と 9600bps の 2 種類のボーレートをサポートしています。ボーレートを 9600bps に設定する場合は、本体前面ターミナル設定スイッチ 1 を「ON」(下側)にし、上図の「通信速度」で 9600 を選択します。

- 3 [設定]メニューから[端末の設定]を選択すると、「端末の設定」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



- 4 [設定]メニューから[端末エミュレーション]を選択すると、「端末エミュレーションの選択」ダイアログボックスが表示されます。
下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



- 5 [電話]メニューから[ダイヤル]を選択し、電話番号を指定せずに[OK]ボタンをクリックします。
- 6 以上で設定が終わりました。
[Enter]キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、ログイン画面が表示されます。

2 ターミナルソフトの設定

Windows 95/98、Windows NT の「ハイパーターミナル」の設定手順

Windows 95/98、Windows NT が動作する PC やワークステーションでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーターミナル」(Hypertrm.exe)を使用することができます。

- 1 Windows 95 の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [ハイパーターミナル] を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hypertrm.exe」をダブルクリックして起動します。
Windows 98 の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [通信] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動します。
Windows NT の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [ハイパーターミナル] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動します。
- 2 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、[OK] ボタンをクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。
- 3 Windows 95 の場合 - 「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1へダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
Windows 98 の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1へダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
Windows NT の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[ポートの設定] タブの [接続方法] の欄で、[COM1] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

- 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。

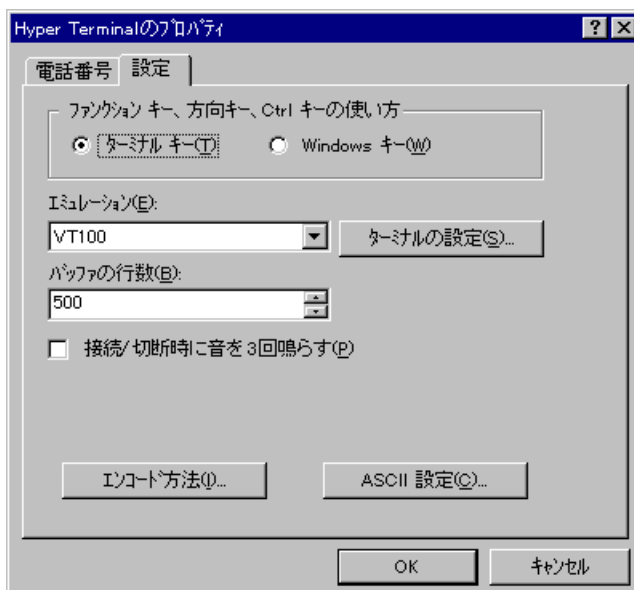


- i** 本製品は 2400bps と 9600bps の 2 種類のボーレートをサポートしています。ボーレートを 9600bps に設定する場合は、本体前面ターミナル設定スイッチ 1 を「ON」(下側)にし、上図の「ビット/秒」で 9600 を選択します。

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが表示されます。

[ファイル]メニューの中から[プロパティ]を選択すると、「XXXXのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

[設定]タブを下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



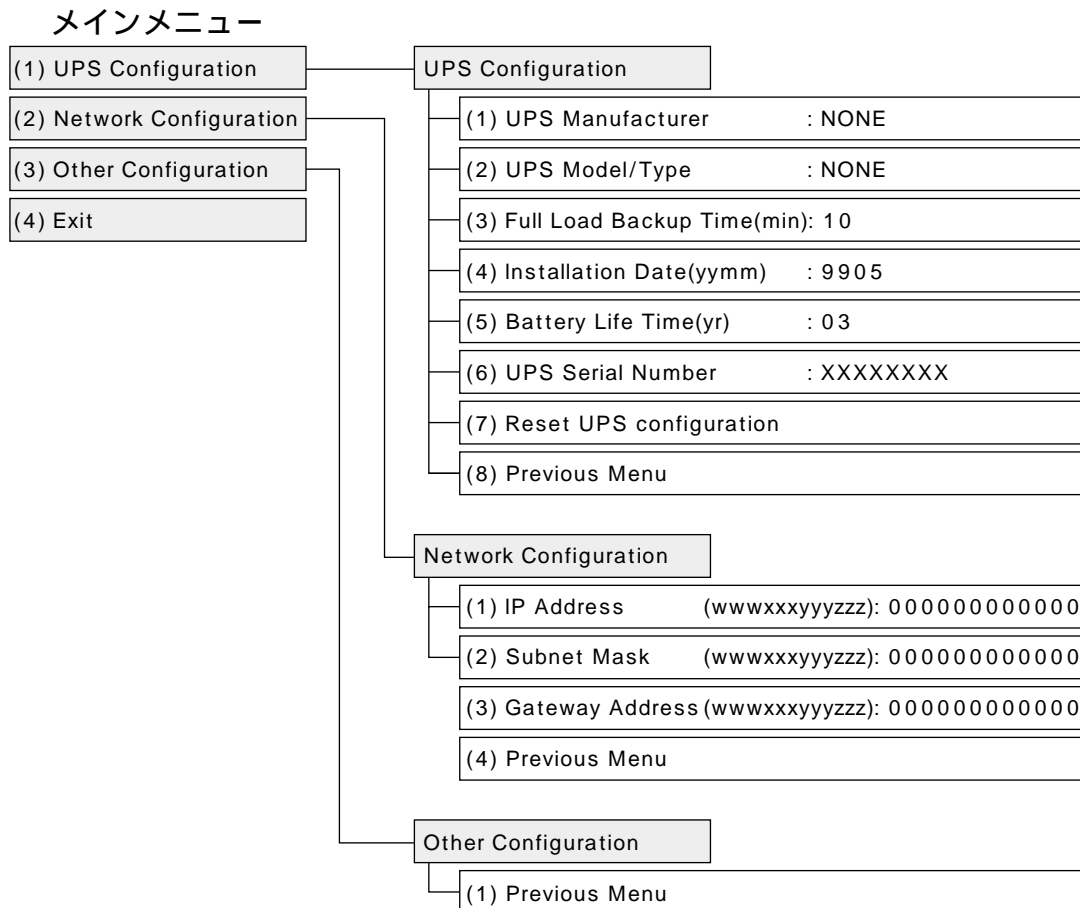
2 ターミナルソフトの設定

- 6 以上で設定が終わりました。
[Enter] キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、ログイン画面が表示されます。

3 メニューの設定

メニュー項目

本製品のメニューは次のような構成になっています。
ここでは、接続しているUPSの設定とネットワークの設定を行います。



- i**▶ 現在、[Other Configuration] メニューは未使用となっています。
- i**▶ 「 : 」の後の値はデフォルト値です。
- !**▶ メニューの設定はコンソールタミナルで行います。それ以外のアクセス方法で、menu コマンドを実行することはできません。
- !**▶ 本製品とUPSをRS-232インターフェースで接続している場合は、必ず、[UPS Configuration]メニューでUPSのメーカーとモデル名を指定してください。UPSのメーカーとモデル名を指定しないと、UPSが停電状態(バックアップ運転)になってもUPS ALARM LED点灯しない、UPS関連のコマンドがエラーになるなどの問題が発生します。
本製品とUPSを接点信号インターフェースで接続している場合は、[UPS Configuration]の[UPS Manufacturer]で「GENERIC CONTACT TYPE」を選択してください。

3 メニューの設定

メニューの操作方法

メニュー設定を開始するには...

「PDU800 > 」プロンプトの後に半角で「menu」と入力し、**Enter**キーを押します。

次の画面に進むには...

選択するメニュー項目の番号を半角英数字で入力して**Enter**キーを押します。
入力した文字を訂正する場合は、**BackSpace**キーでカーソルをもとの位置に戻して、上から入力しなおします。

```
CentreCOM PDU800
Allied Telesis K.K.

(1) UPS Configuration
(2) Network Configuration
(3) Other Configuration
(4) Exit

Select: [1] Enterキーを押す
```

```
UPS Configuration
(1) UPS Manufacturer           : NONE
(2) UPS Model/Type             : NONE
(3) Full Load Backup Time(min): 10
(4) Installation Date(yymm)    : 9905
(5) Battery Life Time(yr)      : 03
(6) UPS Serial Number          : XXXXXXXXX
(7) Reset UPS configuration
(8) Previous Menu

Select: [ ]
```

前の画面に戻るには...

[Previous Menu] の番号を半角英数字で入力して**Enter**キーを押します。
メニュー項目に [Previous Menu] がない場合は、**Enter**キーを空打ちします。

メインメニューからログアウトするには...

メインメニューから[(4) Exit]を選択します。**4**を半角で入力して**Enter**キーを押すと、「PDU800 > 」プロンプトが表示され、コマンドラインに戻ります。

UPS の設定

UPS Configuration

メインメニューから、[(1) UPS Configuration] を選択します。
ここでは、接続するUPSの各種ハードウェア情報を登録します。

```
UPS Configuration
(1) UPS Manufacturer           : NONE
(2) UPS Model/Type            : NONE
(3) Full Load Backup Time(min): 10
(4) Installation Date(yymm)   : 9905
(5) Battery Life Time(yr)     : 03
(6) UPS Serial Number         : XXXXXXXXX
(7) Reset UPS configuration
(8) Previous Menu
```


UPS Manufacturer

UPSのメーカーを指定します。デフォルトは「NONE」で何も設定されていません。

[(1) UPS Configuration] を選択すると次の画面が表示されます。

接続するUPSのメーカーを選択します。

本製品とUPSを接点信号インターフェースで接続している場合は、[(7) GENERIC CONTACT TYPE] を選択します。

 現用のUPSのメーカー、モデル名がメニューにない場合は、本製品とUPSを接点信号インターフェースで接続し、[(7) GENERIC CONTACT TYPE] を選択してください。

```
(1) UPS Manufacturer           : NONE

Select UPS Manufacturer
(1) APC
(2) FUJI
(3) OMRON
(4) MITSUBISHI
(5) SANYO
(6) TOSHIBA
(7) GENERIC CONTACT TYPE
(8) Previous Menu

Select: [ ]
```

UPS Model/Type

UPSのモデル名(型名)を指定します。デフォルトは「NONE」で何も設定されていません。

[(2) UPS Model/Type]を選択すると、[(1) UPS Configuration]で指定したメーカーのモデル名が表示されます。

[(1) UPS Configuration]で[(7) GENERIC CONTACT TYPE]を選択した場合、モデル名は自動的に「GENERIC UPS」となります。

ここでは、例として[(1) UPS Configuration]で[(3) OMRON]を選択した場合を示します。

```
(2) UPS Model/Type                : NONE
```

```
        Select Omron UPS Type
```

- (1) BU707
- (2) BU1007
- (3) BU2006II
- (4) BN75XS
- (5) BN100XS
- (6) BU100XR
- (7) BN140XS
- (8) BU200XR
- (9) Previous Menu

```
Select: [ ]
```

Full Load Backup Time(min)

UPSの定格負荷時のバックアップ時間を登録します。デフォルトは10(分)です。バックアップ時間はUPSのメーカー、モデル名(型名)、接続機器の総容量によって異なりますので、確認の上、登録してください。

[(3) Full Load Backup Time(min)]を選択すると次の画面が表示されます。

UPSのバックアップ時間を60(分)までの半角数字で入力します。

```
(3) Full Load Backup Time(min): 10
```

```
Enter (CR=finish): [ ]
```


Installation Date(yymm)

UPSの使用開始年月を登録します。デフォルトは9905(99年5月)です。

[(4) Installation Date(yymm)] を選択すると次の画面が表示されます。
UPSの使用開始年月を半角数字で入力します。yymm形式で、yyは西暦の下二桁00
~ 99、mmは月の01 ~ 12です。

```
(4) Installation Date(yymm)      : 9905
Enter (CR=finish): [      ]
```

Battery Life Time(yr)

UPSのバッテリー寿命を登録します。デフォルトは03(3年)です。
バッテリー寿命はUPSのメーカー、モデル名(型名)、保存/使用環境、バックアップ
の頻度によって異なりますので、確認の上、登録してください。

[(5) Battery Life Time(yr)] を選択すると次の画面が表示されます。
バッテリー寿命(年単位)を半角数字で入力します。

```
(5) Battery Life Time(yr)        : 03
Enter (CR=finish): [      ]
```

UPS Serial Number

UPSのシリアルナンバー(製造番号)を登録します。デフォルトはXXXXXXXXです。

[(6) UPS Serial Number] を選択すると次の画面が表示されます。
シリアルナンバーを18文字までの半角数字で入力します。

```
(6) UPS Serial Number            : XXXXXXXXXX
Enter (CR=finish): [                ]
```

Reset UPS configuration

[(1) UPS Configuration] で設定したUPS情報をすべてデフォルト値に戻します。

[(7) Reset UPS configuration] を選択すると次の画面が表示されます。
UPS情報をデフォルト値に戻す場合は、[(1) Yes/Confirm] を選択します。

```
Reset UPS Configuration
(1) Yes/Confirm
(2) Previous Menu

Select: [      ]
```

3 メニューの設定

ネットワークの設定

Network Configuration

メインメニューから、[(2) Network Configuration] を選択します。
ここでは、本製品をネットワークに接続するための IP アドレスを設定します。

Network Configuration

```
(1) IP Address      (wwwxxxyyyzzz): 000000000000
(2) Subnet Mask    (wwwxxxyyyzzz): 000000000000
(3) Gateway Address(wwwxxxyyyzzz): 000000000000
(4) Previous Menu
```

IP Address

システムに割り当てる IP アドレスを設定します。デフォルトは「0.0.0.0」です。

[(1) IP Address(wwwxxxyyyzzz)] を選択すると次の画面が表示されます。
IPアドレスを半角数字で入力します。wwwxxxyyyzzz形式で、www、xxx、yyy、zzz
はそれぞれ 000 ~ 255 までの数字です。

```
(1) IP Address      (wwwxxxyyyzzz): 000000000000
Enter (CR=finish): [          ]
```

Subnet Mask

サブネットマスクを設定します。デフォルトは「0.0.0.0」です。

[(2) Subnet Mask(wwwxxxyyyzzz)] を選択すると次の画面が表示されます。
サブネットマスクを半角数字で入力します。wwwxxxyyyzzz形式で、www、xxx、yyy、
zzz はそれぞれ 000 ~ 255 までの数字です。

```
(2) Subnet Mask    (wwwxxxyyyzzz): 000000000000
Enter (CR=finish): [          ]
```

Gateway Address

ルーターを介して他のIPネットワークにパケットを送信する場合は、ゲートウェイアドレスを設定します。デフォルトは「0.0.0.0」です。

[(3) Gateway Address(wwwxyyyzzz)] を選択すると次の画面が表示されます。ゲートウェイアドレスを半角数字で入力します。wwwxyyyzzz形式で、www、xxx、yyy、zzz はそれぞれ 000 ~ 255 までの数字です。

```
(3) Gateway Address(wwwxyyyzzz): 000000000000
Enter (CR=finish): [          ]
```

その他の設定

Other Configuration

[(3) Other Configuration]は現在サポートされていないので、このメニューは使用しないでください。

メニュー設定の終了

Exit

メインメニューから、[(4) Exit] を選択します。

「PDU800 > 」プロンプトが表示され、再びコマンドラインに戻ります。

4 基本設定

コマンドを使用して、本製品に対して様々な設定を行うことができます。
ここでは、コマンドの入力操作、コマンドを使用した基本的な設定例について説明します。

コンソールでの入力操作

コマンドおよびパラメーターは、半角英数字でタイプ入力します。
入力した文字を訂正する場合は、`[BackSpace]`キーでカーソルを戻して、上から入力しなおします。
コマンドを実行する場合は、`[Enter]`キーを押します。

2

エラーメッセージについて

入力したコマンドやパラメーターが間違っている場合は、エラーメッセージが表示されます。

```
PDU800 : Command error
```

コマンドライン書式と表記の意味

コマンドやパラメータを次のような書式で記載しています。

```
command <parameter> {option1|option2|option3}
```

command : コマンド名です。半角英数字で入力します。
大文字・小文字を区別しません。

parameter : 引数です。半角英数字で入力します。
大文字・小文字を区別します。

option : オプションです。半角英数字で入力します。
大文字・小文字を区別します。

コマンド、パラメーター、スイッチの間には `[スペース]` を入力してください。
コマンド、パラメーター、スイッチはすべてタイプ入力する必要があります。
コマンドは大文字・小文字を区別しません。
パラメーターやオプションは大文字・小文字を区別します。

ヘルプの使いかた

コマンドの概要や全コマンドのリストをオンラインで参照することができます。

使用可能なコマンドをすべて表示します。

```
PDU800 > HELP   
acon acop acp2 acst ask2 asrk boft bont btlf clck  
dfst dnst doft dont etad gwad help ipad land lgn0  
lgn1 lgn2 lgn3 lgpw mint nipk nmad pwst rdfv rdmn  
rdsn rdsw rly1 rly2 rly3 rly4 rly5 rly6 rly7 rly8  
rops rupl sdef sdlg shut smpw snsk soft sont upld  
utid vern
```

コマンドの概要を表示します。

概要を表示させるコマンドは小文字で入力してください。

```
PDU800 > HELP acon   
acon : Switch Power ON
```

ログインパスワードを設定する

ログインパスワードのステータスの変更、およびログインパスワードの変更を行います。デフォルトは、ステータスがDisable(無効)、パスワードが「PDU800」です。セキュリティ確保のため、デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。パスワードを設定するとログイン時に「Password:」と表示されて、パスワードを入力するように要求されます。

使用コマンド

```
PWST {Disable|Enable}
```

```
LPGW <newpassword>
```

パラメーター

Disable : パスワードを無効にする場合は Disable と入力します。

Enable : パスワードを有効にする場合は Enable と入力します。

newpassword : 新しいパスワードを入力します。

▶ ログインパスワードの設定

- 1 ログインパスワードの設定を Disable(無効) から Enable(有効) に変更します。

```
PDU800 > PWST Enable [Enter]
```

- 2 ログインパスワードを変更します。

設定するパスワードを 10 文字までの半角英数字で入力してください。パスワードは大文字・小文字を区別します。また、入力した文字は画面には表示されません。

```
PDU800 > LPGW <new password> [Enter]
```

日付と時刻を設定する

現在の日付と時刻を設定します。

使用コマンド

```
CLCK <WYYMMDDhhmmss>
```

パラメーター

W : 曜日(0 ~ 6) 0 = 日 1 = 月 2 = 火 3 = 水 4 = 木 5 = 金 6 = 土

YY : 年(00 ~ 99)

MM : 月(01 ~ 12)

DD : 日(01 ~ 31)

hh : 時間(00 ~ 23)

mm : 分(00 ~ 59)

ss : 秒(00 ~ 59)

▶ 日付と時刻の設定

例として、2000 年 4 月 10 日 月曜日 15 時 30 分 15 秒に設定します。

```
PDU800 > CLCK 1000410153015 [Enter]
```

電源出力コンセントのON/OFFを行う

電源出力コンセントのON/OFFをチャンネル別に行います。デフォルトは全チャンネル電源OFFです。電源のON/OFFを行うための操作は次の3つの方法があります。

1 チャンネルずつ ON/OFF を行う

電源出力コンセントのチャンネル1～8のうち、1チャンネルを指定して電源のON/OFFを行います。

使用コマンド

RLY1~RLY8 {TurnOn|TurnOff}

RLY1 :チャンネル1を指定します。

:

RLY8 :チャンネル8を指定します。

パラメーター

TurnOn :電源をONにします。

TurnOff :電源をOFFにします。

▶ 指定したチャンネルのON/OFF

例として、チャンネル3の電源をONにします。

```
PDU800 > RLY3 TurnOn [Enter]
```

例として、チャンネル5の電源をOFFにします。

```
PDU800 > RLY5 TurnOff [Enter]
```

複数チャンネルのON/OFFを同時に行う

電源出力コンセントのチャンネル1～8を同時にON/OFFします。

使用コマンド

ACP2 <XXXXXXXX>

パラメーター

XXXXXXXX :一番左のXがチャンネル1、一番右のXがチャンネル8を意味します。Xが1の場合はON、Xが0の場合はOFFとなります。

▶ 複数チャンネルのON/OFF

例として、チャンネル1～8の電源をすべてONにします。

```
PDU800 > ACP2 11111111 [Enter]
```

例として、チャンネル3とチャンネル5の電源をONにします。

```
PDU800 > ACP2 00101000 [Enter]
```

i ACP2 コマンドと同じ内容で、チャンネルを1～4に限定して実行するコマンドとして、ACOP コマンドがあります。

有効チャンネルを登録して ON/OFF を行う

電源 ON/OFF のコマンドを有効とするチャンネルとそうでないチャンネルを、あらかじめ登録しておいてから、電源の ON/OFF を行います。

使用コマンド

ASK2 <XXXXXXXX>

ACON

SHUT

パラメーター

XXXXXXXX : 一番左の X がチャンネル 1、一番右の X がチャンネル 8 を意味します。X が 1 の場合は有効、X が 0 の場合は無効となります。

▶ 有効チャンネルの ON/OFF

例として、チャンネル 3 とチャンネル 5 の電源を ON にします。

- 1 ASK2 コマンドを使用して、チャンネル 3 とチャンネル 5 を有効チャンネルとして登録します。

```
PDU800 > ASK2 00101000 
```

- 2 ACON コマンドを使用して、電源を ON にします。
このコマンドはチャンネル 3 とチャンネル 5 に対してのみ適用されます。

```
PDU800 > ACON 
```


例として、チャンネル 5 ~ 8 の電源を OFF にします。


- 1 ASK2 コマンドを使用して、チャンネル 5 ~ 8 を有効チャンネルとして登録します。

```
PDU800 > ASK2 00001111 
```

- 2 SHUT コマンドを使用して、電源を OFF にします。
このコマンドはチャンネル 5 ~ 8 に対してのみ適用されます。


```
PDU800 > SHUT 
```

 ASK2 コマンドと同じ内容で、チャンネルを 1 ~ 4 に限定して実行するコマンドとして、ASRK コマンドがあります。

 ASK2(ASRK)コマンドの設定が反映されるのは、ACON、SHUT コマンドと以下のコマンドです。

ACST、SONT、SOFT、BONT、BOFT、DONT、DOFT

RLY コマンドと ACP2 コマンドは、ASK2 コマンドの設定に関係なく実行されますので、ご注意ください。

 2- 27 ページ「5 コマンドリファレンス」

タイマー設定を行う

電源出力コンセントのON/OFFをタイマー設定で自動的に行います。デフォルトは全チャンネルともタイマー設定されていません。タイマーには、曜日ごとにON/OFFを設定する「デイリータイマー」、一定期間デイリータイマーを無効するための「バイパス・デイリータイマー」、さらに特定の日時を指定してタイマー設定するための「スペシャルタイマー」の3種類があります。

優先順位は、スペシャルタイマー>バイパス・デイリータイマー>デイリータイマーです。

8 月							2000
日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

月～金曜日は9:00～17:30 電源ON
土曜日は9:00～12:00 電源ON
日曜日は終日 電源OFF
デイリータイマー

8月14日～18日は夏休みのため
電源OFF(デイリータイマー無効)
バイパス・デイリータイマー

8月17日は休日出勤のため
9:00～17:30 電源ON
スペシャルタイマー

i タイマー設定を行う場合は、ASK2コマンドであらかじめ有効チャンネルを登録しておきます。有効チャンネル以外のチャンネルにタイマー設定の内容は反映されません。

デイリータイマー

使用コマンド

DONT <1hhmmF2hhmmF3hhmmF4hhmmF5hhmmF6hhmmF7hhmmF>

DOFT <1hhmmF2hhmmF3hhmmF4hhmmF5hhmmF6hhmmF7hhmmF>

パラメーター

1～7 : 曜日(1～7) 1=月 2=火 3=水 4=木 5=金 6=土 7=日
hh : 時間(00～23)
mm : 分(00～59)
F : Enable(有効)/Disable(無効) 1 = Enable 0 = Disable

▶ デイリータイマーの設定

例として、次のように設定します。

月曜日から金曜日は電源を 9 時 00 分に ON、17 時 30 分に OFF

土曜日は電源を 9 時 00 分に ON、12 時 00 分に OFF

日曜日は電源を ON にしない

- 1 DONT コマンドを使用して、デイリータイマー電源 ON の設定を行います。
この場合、日曜日は Disable に設定します。

```
PDU800 > DONT 109001209001309001409001509001609001709000 [Enter]
```

- 2 DOFT コマンドを使用して、デイリータイマー電源 OFF の設定を行います。
この場合、土曜日は OFF の時間を 12:00 に、日曜日は Disable に設定します。

```
PDU800 > DOFT 117301217301317301417301517301612001717300 [Enter]
```

■ バイパス・デイリータイマー

使用コマンド

BONT <FyymmddYYMMDD>

BOFT <FyymmddYYMMDD>

パラメーター

F	: Enable(有効)/Disable(無効) 1 = Enable 0 = Disable
yymmdd	: 開始年月日
YYMMDD	: 終了年月日
yy(YY)	: 年(00 ~ 99)
mm(MM)	: 月(01 ~ 12)
dd(DD)	: 日(01 ~ 31)

▶ バイパス・デイリータイマーの設定

例として、次のように設定します。

2000 年 8 月 14 日から 8 月 18 日まで、デイリータイマーを無効にする

- 1 BONT コマンドを使用して、デイリータイマー電源 ON の設定を無効にします。

```
PDU800 > BONT 1000814000818 [Enter]
```

- 2 BOFT コマンドを使用して、デイリータイマー電源 OFF の設定を無効にします。

```
PDU800 > BOFT 1000814000818 [Enter]
```

スペシャルタイマー

使用コマンド

SONT <FYMMDDhhmm>

SOFT <FYMMDDhhmm>

パラメーター

F : Enable(有効)/Disable(無効) 1 = Enable 0 = Disable

yy(YY) : 年(00 ~ 99)

mm(MM) : 月(01 ~ 12)

dd(DD) : 日(01 ~ 31)

hh : 時間(00 ~ 23)

mm : 分(00 ~ 59)

▶ スペシャルタイマーの設定

例として、次のように設定します。

2000年8月17日9時00分に電源をON

2000年8月17日17時30分に電源をOFF

- 1 SONT コマンドを使用して、スペシャルタイマー電源ONの設定を行います。

```
PDU800 > SONT 10008170900 [Enter]
```

- 2 SOFT コマンドを使用して、スペシャルタイマー電源OFFの設定を行います。

```
PDU800 > SOFT 10008171730
```

ネットワークの設定を行う

SNMPで本製品を管理するためのIPパラメーターの設定を行います。デフォルトはすべて「0.0.0.0」です。

使用コマンド

IPAD <aaabbbcccddd>

SNSK <aaabbbcccddd>

GWAD <aaabbbcccddd>

NMAD <aaabbbcccddd>

パラメーター

aaabbbcccddd :aa(000 ~ 255) bb(000 ~ 255) cc(000 ~ 255) dd(000 ~ 255)

▶ IPパラメーターの設定

- 1 IPADコマンドを使用して、IPアドレス(例として、192.168.200.20)を設定します。

```
PDU800 > IPAD 192168200020 
```

- 2 SNSKコマンドを使用して、サブネットマスク(例として、255.255.255.0)を設定します。

```
PDU800 > SNSK 255255255000 
```

- 3 GWADコマンドを使用して、ゲートウェイアドレス(例として、192.168.200.32)を設定します。ルーターを介して、他のIPネットワークにパケットを送信する場合は、ゲートウェイアドレスを設定します。

```
PDU800 > GWAD 192168200032 
```

- 4 NMADコマンドを使用して、Trapメッセージを送信するSNMPマネージャーのIPアドレス(例として、192.168.200.1)を設定します。

```
PDU800 > NMAD 192168200001 
```

- i** メニューの[Network Configuration]内[IP Address]/[Subnet Mask]/[Gateway Address]ですでにIPパラメーターを設定している場合は、IPAD、SNSK、GWADコマンドによる設定は必要ありません。

リモートシェルでコマンドを実行する

TCP/IPネットワークのシステム間では、リモートシェル(rsh)コマンドを使用して、ネットワーク上の端末から本製品のコマンドを実行することができます。

端末にはリモートシェルコマンドをサポートしているOS、または通信ソフトウェアが搭載されている必要があります。

UNIX
Windows NT/Windows 2000
Netware
リモートシェルコマンドをサポートしている TCP/IP 通信ソフトウェア

一般的なコマンドラインは次のようになります。

```
rsh host (<-l username>) <command> <-p password>
```

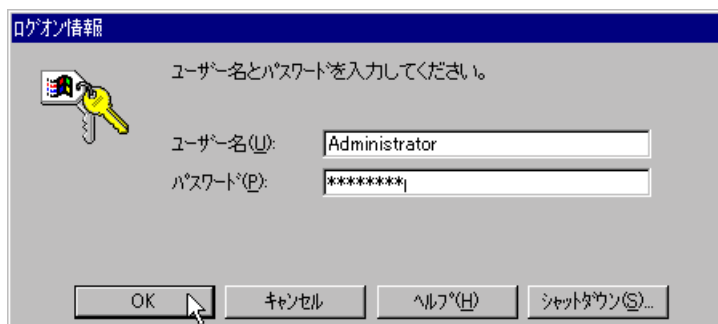
rsh	: リモートホストでコマンドを実行します。
host	: リモートホスト(本製品)のIPアドレスを指定します。
-l username	: 各OSにログインする際のユーザー名が使用されますので、ログイン時のユーザー名(以下、ログイン名)と本製品のユーザー名を合わせておく必要があります。 本製品はUNIX、Windows NT(Windows 2000)、Netware(3.X以下)の管理者用のログイン名(root、Administrator、SUPERVISOR)が、デフォルトのユーザー名として設定されています。上記のログイン名でログインする場合は、本製品のユーザー名の設定を変更する必要はありません。 通信ソフトウェアを使用する場合は、各マニュアルを参照してください。
command	: 本製品のコマンド
-p password	: PWSTコマンドでコマンド(ログイン)パスワードのステータスを有効にした場合は、コマンドを実行する際にパスワードの入力が必要となります。

ここではWindows NTのコマンドプロンプトを例にコマンドを実行する手順を説明します。

- 1 Windows NT を起動します。
- 2 「ログオンの開始」ウィンドウが表示されますので、Ctrl+Alt+Delキーを同時に押します。

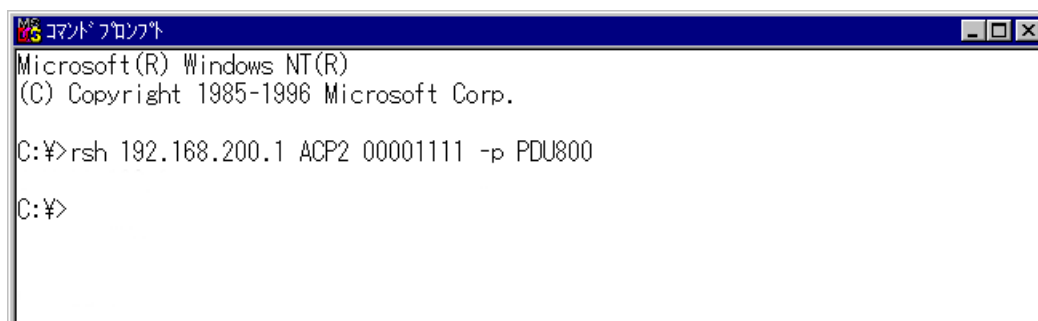
4 基本設定

- 3 「ログオン情報」ウィンドウが表示されますので、管理者のユーザー名 Administrator でログオンします。



- 4 [スタート]メニューの中から[プログラム]->[アクセサリ]->[コマンドプロンプト]を選択してコマンドプロンプト起動します。
- 5 ここでは、例として、ACP2コマンドを使用して、チャンネル5～8の出力をONにするためのコマンドを実行します。

```
rsh 192.168.200.1 ACP2 00001111 -p PDU800
```



- ▶ PWSTコマンドがDisableに設定されている場合は、通常 <-p password> の入力はありませんが、PWSTコマンドでパスワードのステータスを変更する場合、およびLGPWコマンドでパスワードの設定を行う場合に限り、<-p password> の入力が必要となりますので、ご注意ください。

5 コマンドリファレンス

コマンドとその概要を一覧表示します。

1	ACON	電源の出力
2	ACOP	電源出力コンセントの ON/OFF 表示と設定
3	ACP2	電源出力コンセントの ON/OFF 表示と設定
4	ACST	電源出力ステータスの表示
5	ASK2	制御する電源出力チャンネルの表示と設定
6	ASRK	制御する電源出力チャンネルの表示と設定
7	BOFT	バイパス・デイリー OFF タイマーの表示と設定
8	BONT	バイパス・デイリー ON タイマーの表示と設定
9	BTLF	UPS バッテリー寿命の表示と設定
10	CLCK	日付の表示と設定
11	DFST	デイリー OFF タイマーステータスの表示と設定
12	DNST	デイリー ON タイマーステータスの表示と設定
13	DOFT	デイリー OFF タイマーの表示と設定
14	DONT	デイリー ON タイマーの表示と設定
15	ETAD	MAC アドレスの表示
16	EXIT	コンソールターミナルからのログアウト
17	GWAD	ゲートウェイアドレスの表示と設定
18	HELP	コマンドの一覧リスト表示
19	IPAD	IP アドレスの表示と設定
20	LAND ^注	LAN エラーカウンターの表示
21	LGN0 ~ 3	ユーザー名の表示と設定
22	LGPW	ログイン(コマンド)パスワードの設定
23	MINT	モデムの初期化
24	NIPK	接点信号 / UPS ポート入力信号極性の表示と設定
25	NMAD	SNMP マネージャーの IP アドレスの表示と設定
26	PWST	ログイン(コマンド)パスワードステータスの表示と設定
27	RDFV	UPS ファームウェアバージョンの表示
28	RDMN	UPS モデル名の表示
29	RDSN	UPS シリアル番号の表示
30	RDSW	ターミナル設定(CONFIG)スイッチの表示
31	RLY1 ~ RLY8	電源の出力
32	ROPS	接点信号 / UPS ポート入力信号の表示
33	RUP1	UPS のステータスの表示
34	SDEF	パラメーターをデフォルト設定に戻す
35	SDLG	シャットダウンログの表示
36	SHUT	電源出力の停止
37	SMPW	SNMP コミュニティ名の表示と設定
38	SNSK	サブネットマスクの表示と設定
39	SOFT	スペシャル OFF タイマーの表示と設定
40	SONT	スペシャル ON タイマーの表示と設定
41	UPLD ^注	ソフトウェアのアップロード
42	UTID	ユニット ID の表示
43	VERN	ファームウェア情報の表示

注: 保守コマンドのため、使用しないでください。

5 コマンドリファレンス

本製品で使用できるすべてのコマンドの機能とその使用方法について説明します。
コマンドはABC順に記載されています。

- 1 ACON 電源の出力
電源出力コンセントから電源を出力させます。
ASK2、ASRK コマンドで制御するチャンネルを設定していない場合、コマンドエラーになります。

書式

ACON

- 2 ACOP 電源出力コンセントの ON/OFF 表示と設定
ACP2 コマンドと同様に電源出力を制御します。
このコマンドは、電源出力8チャンネルのうちチャンネル1～4に限定して制御ができます。
ASK2、ASRK コマンドの設定に関係なく実行されますので、ご注意ください。

書式

ACOP <XXXX>

実行結果

XXXX

パラメーター

X : 電源出力コンセントの出力状況を示します。
0 は OFF、1 は ON を示します。

例 1

チャンネル3とチャンネル4の電源出力をONに設定します。

```
PDU800 > ACOP 0011 
```

例 2

現在の出力状況を表示します。現在はチャンネル1～4の電源出力がONの状況です。

```
PDU800 > ACOP   
1111
```


3 ACP2 電源出力コンセントの ON/OFF 表示と設定

電源出力 8 チャンネルの電源出力を制御します。

ASK2、ASRK コマンドの設定に関係なく実行されますので、ご注意ください。

書式

ACP2 <XXXXXXXX>

実行結果

XXXXXXXX

パラメーター

X : 電源出力コンセントの出力状況を示します。
0 は OFF、1 は ON を示します。

例 1

チャンネル 5 ~ 8 の電源出力を ON に設定します。

```
PDU800 > ACP2 00001111 [Enter]
```

例 2

現在の出力状況を表示します。現在はチャンネル 1 ~ 4 の電源出力が ON の状況です。

```
PDU800 > ACP2 [Enter]
11110000
```

4 ACST 電源出力ステータスの表示

現在の電源出力のステータスを表示します。1チャンネル以上電源出力が ON であれば、PowerOn で表示されます。

このコマンドはASK2、ASRKコマンドで設定されているチャンネルに対してのみ有効です。また、ASK2、ASRKコマンドで制御するチャンネルを設定していない場合、コマンドエラーになります。

書式

ACST

実行結果

PowerOn/PowerOff

パラメーター

PowerOn : 電源出力が ON の状態です。
PowerOff : 電源出力が OFF の状態です。

例

現在の電源出力のステータスを表示します。現在、電源出力が ON のチャンネルがあります。

```
PDU800 > ACST [Enter]
PowerOn
```

5 コマンドリファレンス

5 ASK2 制御する電源出力チャンネルの表示と設定

電源出力 8 チャンネルのうち、制御させるチャンネルを表示、設定します。
タイマー設定などで電源を落としたい機器を接続する出力チャンネルは、0 で設定します。

書式

ASK2 <XXXXXXXX>

実行結果

XXXXXXXX

パラメーター

X : 電源出力の制御登録の状態を表します。
0 は未登録、1 は登録済みを示します。

例

電源出力チャンネルの 1 ~ 4 を制御させるように登録します。

```
PDU800 > ASK2 11110000 [Enter]
```

6 ASRK 制御する電源出力チャンネルの表示と設定

ASK2 コマンドと同様に制御させるチャンネルを表示、設定します。
このコマンドは、電源出力 8 チャンネルのうちチャンネル 1 ~ 4 に限定して制御ができます。

書式

ASRK <XXXX>

実行結果

XXXX

パラメーター

X : 電源出力の制御登録の状態を表します。
0 は未登録、1 は登録済みを示します。

例

電源出力チャンネル 1 とチャンネル 4 を制御させるように登録します。

```
PDU800 > ASRK 1001 [Enter]
```

7 BOFT バイパス・デイリー OFF タイマーの表示と設定

バイパス・デイリーOFFタイマーを表示、設定します。デフォルトでは、バイパス・デイリー OFF タイマーは設定されていません。

書式

BOFT <FyyymmddYYMMDD>

実行結果

FyyymmddYYMMDD

パラメーター

F : Enable(有効)/Disable(無効) 0 = Disable 1 = Enable
 yymmdd : 開始年月日
 YYMMDD : 終了年月日
 yy(YY) : 年(00 ~ 99)
 mm(MM) : 月(01 ~ 12)
 dd(DD) : 日(01 ~ 31)

例 1

バイパス・デイリー OFF タイマーの設定を 1996 年 2 月 16 日から 1996 年 2 月 19 日の 4 日間一時的に無効にします。

```
PDU800 > BOFT 1960216960219 [Enter]
```

例 2

現在のバイパス・デイリーOFFタイマーの設定を表示します。現在、バイパス・デイリー OFF タイマーは設定されていません。

```
PDU800 > BOFT [Enter]
0960216960219
```

8 BONT バイパス・デイリー ON タイマーの表示と設定

バイパス・デイリーONタイマーを表示、設定します。デフォルトでは、バイパス・デイリー ON タイマーは設定されていません。

書式

BONT <FyyymmddYYMMDD>

実行結果

FyyymmddYYMMDD

パラメーター

F : Enable(有効)/Disable(無効) 0 = Disable 1 = Enable
 yymmdd : 開始年月日
 YYMMDD : 終了年月日
 yy(YY) : 年(00 ~ 99)
 mm(MM) : 月(01 ~ 12)
 dd(DD) : 日(01 ~ 31)

5 コマンドリファレンス

例 1

バイパス・デイリー ON タイマーの設定を 1996 年 2 月 16 日から 1996 年 2 月 19 日の 4 日間一時的に無効にします。

```
PDU800 > BOFT 1960216960219 
```

例 2

現在のバイパス・デイリー ON タイマーの設定を表示します。現在、バイパス・デイリー ON タイマーは設定されていません。

```
PDU800 > BOFT   
0960216960219
```

9 BTLF UPS バッテリー寿命の表示と設定

接続している UPS の使用開始日とバッテリーの寿命を表示、設定します。デフォルトでは、990536 (使用開始日が 99 年 5 月、バッテリー寿命が 36 ヶ月) に設定されています。

メニューの [UPS Configuration] 内 [Installation Date] / [Battery Life Time] の設定内容が反映されます。

書式

BTLF <YYMMmm>

実行結果

YYMMmm

パラメーター

YY : 年(00 ~ 99)
MM : 月(01 ~ 12)
mm : バッテリー寿命 月(00 ~ 99)

例 1

現在の設定を表示します。現在は UPS の使用開始日が 99 年 5 月、バッテリー寿命が 36 ヶ月(3 年) に設定されています。

```
PDU800 > BTLF   
990536
```

例 2

UPS の使用開始日を 99 年 10 月、バッテリー寿命を 60 ヶ月(5 年) に設定します。

```
PDU800 > BTLF 991060 
```

10 CLCK

日付の表示と設定

システムの日付と時刻を表示、設定します。

書式

CLCK <WYYMMDDhhmmss>

実行結果

WYYMMDDhhmmss

パラメーター

W : 曜日(0~6) 0=日 1=月 2=火 3=水 4=木 5=金 6=土
 YY : 年(00~99)
 MM : 月(01~12)
 DD : 日(01~31)
 hh : 時間(00~23)
 mm : 分(00~59)
 ss : 秒(00~59)

例 1

現在の日付と時刻を 1996年3月1日(金曜日)15時30分00秒に設定します。

```
PDU800 > CLCK 5960301153000 [Enter]
```

例 2

現在の日付と時刻を表示します。現在は、2000年4月13日(木曜日)14時05分00秒に設定されています。

```
PDU800 > CLCK 4000413140500 [Enter]
```

11 DFST

デイリー OFF タイマーステータスの表示と設定

デイリー OFF タイマーのステータスを表示、設定します。

当日、DOFT コマンドで設定した時間の前に実行し、デイリー OFF タイマーを実行済(有効)/未実行(無効)にします。

書式

DFST {Done|NotDone}

実行結果

Done/NotDone

パラメーター

Done : 当日デイリー OFF タイマー実行済(無効)にします。
 NotDone : 当日デイリー OFF タイマー未実行(有効)にします。

例 1

デイリー OFF タイマーを実行済(無効)にします。

```
PDU800 > DFST Done [Enter]
```

例 2

デイリー OFF タイマーステータスの現在の設定を表示します。現在は未実行(有効)に設定されています。

```
PDU800 > DFST [Enter]
NotDone
```

5 コマンドリファレンス

12 DNST デیلیー ON タイマーステータスの表示と設定

デیلیー ON タイマーのステータスを表示、設定します。

当日、DONTコマンドで設定した時間の前に実行し、デیلیー ON タイマーを実行済(有効)/未実行(無効)にします。

書式

```
DNST {Done|NotDone}
```

実行結果

```
Done/NotDone
```

パラメーター

Done : 当日デیلیー ON タイマー実行済(無効)にします。

NotDone : 当日デیلیー ON タイマー未実行(有効)にします。

例 1

デیلیー ON タイマーを実行済(無効)にします。

```
PDU800 > DNST Done [Enter]
```

例 2

デیلیー ON タイマーステータスの現在の設定を表示します。現在は未実行(有効)に設定されています。

```
PDU800 > DNST [Enter]
```

```
NotDone
```

13 DOFT デیلیー OFF タイマーの表示と設定

デیلیー OFF タイマーを表示、設定します。デフォルトでは、デیلیー OFF タイマーは設定されていません。

書式

```
DOFT <1hhmmF2hhmmF3hhmmF4hhmmF5hhmmF6hhmmF7hhmmF>
```

実行結果

```
1hhmmF2hhmmF3hhmmF4hhmmF5hhmmF6hhmmF7hhmmF
```

パラメーター

1 ~ 7 : 曜日 1 = 月 2 = 火 3 = 水 4 = 木 5 = 金 6 = 土 7 = 日

hh : 時間(00 ~ 23)

mm : 分(00 ~ 59)

F : Enable(有効)/Disable(無効) 0 = Disable 1 = Enable

例 1

現在の設定を表示します。現在は、月曜日と水曜日の 17 時 30 分にデیلیー OFF タイマーが設定されています。

```
PDU800 > DOFT [Enter]
```

```
117301200000317301400000500000600000700000
```

例 2

デیلیー OFF タイマーを月曜日と金曜日の 17 時 30 分に設定します。

```
PDU800 > DOFT 117301217301317301417301517301600000700000 [Enter]
```

14 DONT

デ일리 ON タイマーの表示と設定

デ일리 ON タイマーを表示、設定します。デフォルトでは、デ일리 ON タイマーは設定されていません。

書式

DONT <1hhmmF2hhmmF3hhmmF4hhmmF5hhmmF6hhmmF7hhmmF>

実行結果

1hhmmF2hhmmF3hhmmF4hhmmF5hhmmF6hhmmF7hhmmF

パラメーター

1 ~ 7 : 曜日 1 = 月 2 = 火 3 = 水 4 = 木 5 = 金 6 = 土 7 = 日
 hh : 時間(00 ~ 23)
 mm : 分(00 ~ 59)
 F : Enable(有効)/Disable(無効) 0 = Disable 1 = Enable

例 1

現在の設定を表示します。現在は、月曜日と水曜日の9時30分にデ일리 ON タイマーが設定されています。

```
PDU800 > DOFT 
109301200000309301400000500000600000700000
```

例 2

デ일리 ON タイマーを月曜日から金曜日の9時30分に設定します。

```
PDU800 > DOFT 109301209301309301409301509301600000700000 
```

15 ETAD

MAC アドレスの表示

システムの MAC アドレス(イーサネットアドレス)を表示します。

書式

ETAD

実行結果

XX:XX:XX:XX:XX:XX

パラメーター

XX : 0 ~ FF(16進数)

例

```
PDU800 > ETAD
00:90:99:09:01:03
```

16 EXIT

コンソールターミナルからのログアウト

ソフトウェアからログアウトします。

書式

EXIT



このコマンドはコンソールターミナルでのみ使用することができます。

5 コマンドリファレンス

17 GWAD

ゲートウェイアドレスの表示と設定

ゲートウェイアドレスの表示、設定をします。デフォルトでは「0.0.0.0」が設定されています。

書式

GWAD <aaabbbcccddd>

実行結果

aaabbbcccddd

パラメーター

aaabbbcccddd : aa(000 ~ 255) bb(000 ~ 255) cc(000 ~ 255) dd(000 ~ 255)

例 1

現在の設定を表示します。現在は 192.168.200.32 に設定されています。

```
PDU800 > GWAD   
192168200032
```

例 2

ゲートウェイアドレスを 192.168.100.32 に設定します。

```
PDU800 > GWAD 192168100032 
```

18 HELP

コマンドの一覧リスト表示

現在登録されているコマンドを一覧表示します。また、コマンドの内容を表示します。

書式

HELP <command>

パラメーター

command : 内容を表示させるコマンドを小文字で入力します。

例 1

コマンドをリスト表示します。

```
PDU800 > HELP   
acon acop acp2 acst ask2 asrk boft bont btlf clck  
dfst dnst doft dont etad gwad help ipad land lgn0  
lgn1 lgn2 lgn3 lgpw mint nipk nmad pwst rdfv rdmn  
rdsn rdsw rly1 rly2 rly3 rly4 rly5 rly6 rly7 rly8  
rops rupl sdef sdlg shut smpw snsk soft sont upld  
utid vern
```

例 2

ACST コマンドの説明を表示します。

```
PDU800 > HELP ACST   
ACST : Power Status
```


IP アドレスを表示、設定します。デフォルトでは「192.0.1.1191」が設定されています。

書式

IPAD <aaabbbcccddd>

実行結果

aaabbbcccddd

パラメーター

aaabbbcccddd : aa(000 ~ 255) bb(000 ~ 255) cc(000 ~ 255) dd(000 ~ 255)

例 1

現在の設定を表示します。現在は 192.168.200.10 に設定されています。

```
PDU800 > IPAD 
192168200010
```

例 2

IP アドレスを 192.168.100.20 に設定します。

```
PDU800 > IPAD 192168100020 
```

通信エラーカウント数を表示します。
保守コマンドのため、使用しないでください。

5 コマンドリファレンス

21 LGN0 ~ 3

ユーザー名の表示と設定

デフォルトで設定されているroot(=SUPERVISOR=Administrator)以外のユーザー名を表示、設定します。

i rootとSUPERVISORとAdministratorは同じ1つのアカウントです。ユーザー名の表示を実行した場合はrootが表示されます。また、デフォルトではLGN0 ~ 3のすべてのユーザー名にrootが設定されています。

書式

LGN0~3 <username>

実行結果

username

パラメーター

username : ユーザー名です。
設定する場合は、10文字までの半角英数字で入力してください。(大文字・小文字を区別します。)

例 1

ユーザー名 taro を LGN2 に登録します。

```
PDU800 > LGN2 taro [Enter]
```

例 2

LGN1 のユーザー名を表示します。

```
PDU800 > LGN3 [Enter]  
kana
```

22 LGPW

ログイン(コマンド)パスワードの設定

コンソールターミナルでログインする際と、rsh(リモートシェル)でコマンドを実行する際のパスワードを設定します。デフォルトでは「PDU800」が設定されています。

書式

LG PW <newpassword>

実行結果

XXXXXXXXXX

返り値はすべてXXXXXXXXXXとなり、実際のパスワードは画面上には表示されません。

パラメーター

newpassword : パスワードです。
10文字までの半角英数字で入力してください。(大文字・小文字を区別します。)

23 MINT

モデムの初期化

モデムに初期化 AT コマンドを送出します。
AT コマンドについては、ご使用のモデムのマニュアルなどを参照してください。

書式

MINT <userdefinestring>

パラメーター

userdefinestring : 初期化 AT コマンドです。

例

モデムに初期化 AT コマンド ATTS0=1S3=13S10=5Q1E0&D2&W0&Y0 を送ります。

```
PDU800 > MINT ATTS0=1S3=13S10=5Q1E0&D2&W0&Y0 
```

24 NIPK

接点信号 / UPS ポート入力信号極性の表示と設定

本体背面 接点信号 / UPS ポートの各入力信号論理を表示、設定します。デフォルトではすべて正論理(0)に設定されています。

書式

NIPK

実行結果

X(SP1)X(BL)X(PF)X(SP2)

パラメーター

X(SP1) : 未使用
X(BL) : UPS バッテリー低下信号
X(PF) : UPS 停電信号
X(SP2) : 未使用

各入力信号が正論理の場合 0、負論理の場合 1 で示します。
SP1、SP2 は未使用のため 0 に設定されています。

例

現在の設定を表示します。現在は BL と PF 信号が負論理に設定されています。

```
PDU800 > NIPK   
0110
```

5 コマンドリファレンス

25 NMAD SNMP マネージャーの IP アドレスの表示と設定

SNMP マネージャーの IP アドレスを表示、設定します。デフォルトでは「0.0.0.0」が設定されています。

書式

```
NMAD <aaabbbcccddd>
```

実行結果

```
aaabbbcccddd
```

パラメーター

aaabbbcccddd : aa(000 ~ 255) bb(000 ~ 255) cc(000 ~ 255) dd(000 ~ 255)

例 1

現在の設定を表示します。現在の設定は 192.168.200.1 です。

```
PDU800 > NMAD   
192168200001
```

例 2

SNMP マネージャーの IP アドレスを 192.168.100.5 に設定します。

```
PDU800 > NMAD 192168100005 
```

26 PWST ログイン(コマンド)パスワードステータスの表示と設定

ログイン(コマンド)パスワードのステータス表示、設定を行います。デフォルトでは「Disable(無効)」に設定されています。

パスワード自体は LGPW コマンドで設定します。

書式

```
PWST {Enable|Disable}
```

実行結果

```
Enable/Disable
```

パラメーター

Disable : パスワードを無効にします。

Enable : パスワードを有効にします。

例 1

現在の設定を表示します。

```
PDU800 > PWST   
Disable
```

例 2

パスワードのステータスを有効にします。

```
PDU800 > PWST Enable 
```

27 RDFV

UPS ファームウェアバージョンの表示

本製品と UPS を接続している場合、UPS のファームウェアバージョンを表示します。

メニューの [UPS Configuration] で UPS のメーカーとモデル名(型名)を設定していない場合、コマンドエラー(NOT AVAILABLE)になります。

書式

RDFV

例

UPS のファームウェアバージョンを表示します。

```
PDU800 > RDFV   
Omron Ver 2000x
```

28 RDMN

UPS モデル名の表示

本製品と UPS を接続している場合、UPS のモデル名(型名)を表示します。

メニューの [UPS Configuration] 内 [UPS Model/Type] の設定内容が反映されます。

メニューの [UPS Configuration] で UPS のメーカーとモデル名(型名)を設定していない場合、コマンドエラー(NOT AVAILABLE)になります。

書式

RDMN

例

UPS のモデル名(型名)を表示します。

```
PDU800 > RDMN   
BU100XR
```

29 RDSN

UPS シリアル番号の表示

本製品と UPS を接続している場合、UPS のシリアル番号を表示します。

メニューの [UPS Configuration] 内 [UPS Serial Number] の設定内容が反映されます。

書式

RDSN

例

UPS のシリアル番号を表示します。

```
PDU800 > RDSN   
4199470019801
```

5 コマンドリファレンス

30 RDSW ターミナル設定(CONFIG)スイッチの表示
本体前面ターミナル設定(CONFIG)スイッチの状態を表示します。

書式

RDSW

実行結果

```
XXXX00000000
```

パラメーター

X : ターミナル設定スイッチの状態を表示します。
0 は OFF、1 は ON を示します。

例

現在の設定を表示します。現在の設定はスイッチ 1 が ON、スイッチ 2 ~ 4 が OFF です。

```
PDU800 > RDSW   
100000000000
```

31 RLY1 ~ RLY8 電源の出力
電源出力コンセントからチャンネルごとに電源を出力させます。
ASK2、ASRK コマンドの設定を無視して制御ができますのでご注意ください。

書式

RLY1~RLY8 {TurnOn|TurnOff|Recycle}

RLY1 はチャンネル 1、RLY2 はチャンネル 8 を示します。

パラメーター

TurnOn : 電源を ON にします。
TurnOff : 電源を OFF にします。
Recycle : 電源が ON の場合に、一度 OFF にしてから、2 秒後に再び ON にします。

例 1

チャンネル 1 の電源を OFF にします。

```
PDU800 > RLY1 TurnOff 
```

例 2

チャンネル 3 の電源を ON にします。

```
PDU800 > RLY3 TurnON 
```

32 ROPS

接点信号 / UPS ポート入力信号の表示

本体背面 接点信号 / UPS ポートの各入力信号の表示を行います。

書式

ROPS

実行結果

X(SP1)X(BL)X(PF)X(SP2)

パラメーター

X(SP1) : 未使用
 X(BL) : UPS バッテリー低下信号
 X(PF) : UPS 停電信号
 X(SP2) : 未使用

NIPKコマンドで各入力信号を正論理(0)に設定している場合、0はOFF(入力信号なし)、1はON(入力信号あり)を示します。

NIPKコマンドで各入力信号を負論理(1)に設定している場合、1はOFF(入力信号なし)、0はON(入力信号あり)を示します。

例


各入力信号が正論理(0)に設定されている場合の現在の入力を表示します。現在はBL信号(バッテリー低下信号)の入力があります。

```
PDU800 > ROPS 
0100
```

33 RUP1

UPS のステータスの表示

本製品とUPSを接続している場合、UPSの各種ステータスを500バイトの出力で表示します。

 メニューの[UPS Configuration]でUPSのメーカーとモデル名(型名)を設定していない場合、すべて「?」で表示されます。また、UPSによっては未対応(取得できない)ステータスがあります。

本製品とUPSを接点信号インターフェースで接続している場合は、UPSの各種ステータスを取得することはできません。

書式

RUP1

パラメーター

各バイトの意味は以下のとおりです。

1 ~ 5	: 入力電圧(0.1V)
6 ~ 10	: 入力周波数(0.1Hz)
11 ~ 15	: 出力電圧(0.1V)
16 ~ 20	: 出力周波数(0.1Hz)
21 ~ 25	: 出力電流(0.1A)
26 ~ 30	: 出力電力(0.1W)
31 ~ 35	: UPS 負荷率(0.1%)

5 コマンドリファレンス

36 ~ 40	: バッテリー残容量(0.1%)
41 ~ 45	: バックアップ時間(Full Load Backup Time , 0.1minutes)
46 ~ 50	: 現負荷での放電時間(0.1minutes)
51 ~ 55	: UPS バッテリー残寿命(0.1years)
56 ~ 60	: UPS 内部温度(0.1)
61 ~ 65	: UPS メーカーコード(UPS Manufacturer の選択番号)
66 ~ 450	: 未使用
451	: 出力状態 0: PowerOff 2: PowerOn
452	: リレー状態 1: TurnOn 2: TurnOff 3: XXXXXXX
45	: 出力方式 1: Line 2: Inverter 3: Undefined
454	: バッテリー状態 1: Discharging(Power failer , operating on battery) 2: Full charge(Battery capacity 100%) 3: Charging(Battery capacity < 100%) 4: Expired 5: No battery
455	: 入力波形状態 1: Line over voltage(+10%nominal) 2: Line power failure 3: Line under voltage(10%nominal) 4: Normal
456	: 充電状態 1: Bad charger 2: Battery over voltage 3: Normal 4: Idle
457	: 負荷状態 0: Normal 1: Overload
458	: UPS 内部温度状態 0: Normal 1: Overheat
459	: UPS 給電方式 0: 常時商用給電方式 1: 常時インバータ給電方式
460	: UPS との通信状態 0: OK 1: Bad
461 ~ 500	: 未使用

2

ソフトウェアの設定

例

```
PDU800 > RUP1   
00983004990100500498000010010000000011360010001950  
000500030800003XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
2123430010XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
```

バイト	出力値	意味
1 ~ 5	00983	入力電圧 98.3 (V)
6 ~ 10	00499	入力周波数 49.9 (Hz)
11 ~ 15	01005	出力電圧 100.5 (V)
16 ~ 20	00498	出力周波数 49.8 (Hz)
21 ~ 25	00001	出力電流 0.1 (A)
26 ~ 30	00100	出力電力 10.0 (W)
31 ~ 35	00000	UPS 負荷率 0 (%)
36 ~ 40	01136	バッテリー残容量 113.6 (%)
41 ~ 45	00100	バックアップ時間 10.0 (minutes)
46 ~ 50	01950	現負荷でのバッテリー放電時間 195.0 (minutes)
51 ~ 55	00050	UPS バッテリー残寿命 5.0 (年)
56 ~ 60	00308	UPS 内部温度 30.8 ()
61 ~ 65	00003	UPS メーカーコード 3 (OMRON)
451	2	出力状態 PowerOn
452	1	出力リレー状態 TurnOn
453	2	出力方式 Inverter
454	3	バッテリー状態 Charging
455	4	入力電圧波形状態 Normal
456	3	充電状態 Normal
457	0	負荷状態 Normal
458	0	UPS 内部温度状態 Normal
459	1	UPS 給電方式 常時インバータ給電方式
460	0	UPS との通信状態 OK

5 コマンドリファレンス

34 SDEF パラメーターをデフォルト設定に戻す
以下のパラメーターをデフォルト設定に戻します。

書式

SDEF

パラメーター	: デフォルト設定
日付と時刻	: 6940101000000(土曜日 1994年1月1日 00:00:00)
すべてのON/OFFタイマー設定	: Disable(無効)
電源出力の設定	: 何も設定されていない状態(すべて電源OFF)
ユーザー名	: root(= SUPERVISOR = Administrator)
ログイン(コマンド)パスワード	: PDU800
パスワードのステータス	: Disable(無効)
SNMP マネージャーアドレス	: 000000000000
SNMP コミュニティー名	: atkkdevice

35 SDLG シャットダウンログの表示
直前のシャットダウン(電源出力OFF)のログを表示します。

書式

SDLG <SSWYYMMDDhhmmss>

パラメーター

SS	: シャットダウン(電源出力OFF)の原因を示します。 01 = 原因不明 03 = SHUT コマンドによるシャットダウン 05 = OFF タイマーによるシャットダウン
W	: 曜日(0 ~ 6) 0 = 日 1 = 月 2 = 火 3 = 水 4 = 木 5 = 金 6 = 土
YY	: 年(00 ~ 99)
MM	: 月(01 ~ 12)
DD	: 日(01 ~ 31)
hh	: 時間(00 ~ 23)
mm	: 分(00 ~ 59)
ss	: 秒(00 ~ 59)

36 SHUT 電源出力の停止
電源出力コンセントから電源出力を停止します。
ASK2、ASRK コマンドで制御するチャンネルを設定していない場合、コマンドエラーになります。

書式

SHUT

37 SMPW

SNMP コミュニティ名の表示と設定

プライベート MIB 中のコミュニティ名を表示、設定します。

本製品のコミュニティ名設定の仕様は下記のとおりです。

Get	デフォルト値「public」	変更不可
Set	デフォルト値「atkkdevice」	SMPW コマンドにて変更可能
Trap	「ColdStartTrap」/「LinkUpTrap」に対するコミュニティ デフォルト値「public」 変更不可 「ColdStartTrap」/「LinkUpTrap」以外の Trap に対するコミュニティ デフォルト値「atkkdevice」 SMPW コマンドにて変更可能	

書式

SMPW <communityname>

実行結果

communityname

パラメーター

communityname : コミュニティ名です。
設定する場合は、10文字までの半角英数字で入力してください。(大文字・小文字を区別します。)

例

現在の設定を表示します。

```
PDU800 > SMPW 
atkkdevice
```

38 SNSK

サブネットマスクの表示と設定

サブネットマスクを表示、設定します。デフォルトでは「0.0.0.0」が設定されています。

書式

SNSK <aaabbbcccddd>

実行結果

aaabbbcccddd

パラメーター

aaabbbcccddd : aa(000 ~ 255) bb(000 ~ 255) cc(000 ~ 255) dd(000 ~ 255)

例 1

現在の設定を表示します。現在の設定は 255.255.255.0 です。

```
PDU800 > SNSK 
255.255.255.000
```

例 2

サブネットマスクを 255.255.255.0 に変更します。

```
PDU800 > SNSK 255.255.255.000 
```

5 コマンドリファレンス

39 SOFT スペシャルOFFタイマーの表示と設定

スペシャルOFFタイマーを表示、設定します。デフォルトでは、スペシャルOFFタイマーは設定されていません。

書式

SOFT <FYYMMDDhhmm>

実行結果

FYYMMDDhhmm

パラメーター

F : Enable(有効)/Disable(無効) 0 = Disable 1 = Enable
YY : 年(00 ~ 99)
MM : 月(01 ~ 12)
DD : 日(01 ~ 31)
hh : 時間(00 ~ 23)
mm : 分(00 ~ 59)

例 1

現在の設定を表示します。現在は、1996年9月1日23時00分にスペシャルOFFタイマーが設定されています。

```
PDU800 > SOFT   
19609012300
```

例 2

スペシャルOFFタイマーを2000年1月1日21時00分に設定します。

```
PDU800 > SOFT 10001012100 
```

40 SONT

スペシャル ON タイマーの表示と設定

スペシャルONタイマーを表示、設定します。デフォルトでは、スペシャルONタイマーは設定されていません。

書式

SONT <FYMMDDhhmm>

実行結果

FYMMDDhhmm

パラメーター

F : Enable(有効)/Disable(無効) 0 = Disable 1 = Enable
 YY : 年(00 ~ 99)
 MM : 月(01 ~ 12)
 DD : 日(01 ~ 31)
 hh : 時間(00 ~ 23)
 mm : 分(00 ~ 59)

例 1

現在の設定を表示します。現在は、1996年9月1日9時00分にスペシャルONタイマーが設定されています。

```
PDU800 > SONT 
19609010900
```

例 2

スペシャルONタイマーを2000年1月1日10時30分に設定します。

```
PDU800 > SONT 10001011030 
```

41 UPLD

ソフトウェアのアップロード

本製品のソフトウェアをアップロードします。
 保守コマンドのため、使用しないでください。

42 UTID

ユニットIDの表示

本製品のユニットIDを表示します。

書式

UTID

実行結果

PDU800

例

ユニットIDを表示します。

```
PDU800 > UTID 
PDU800
```

5 コマンドリファレンス

43 VERN

ファームウェア情報の表示

本製品に搭載されているファームウェア情報を表示します。

書式

VERN

実行結果

VVVYYMMDD

パラメーター

VVV : バージョン
YY : リリース年
MM : リリース月
DD : リリース日

例

ファームウェア情報を表示します。

```
PDU800 > VERN 
```

```
100000510
```


3

付 録

この章では、トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

1 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処方法について説明します。以下の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

 4-2 ページ「サポート連絡先」

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LED 表示の確認

LED	色	状態	表示内容
POWER	緑	点滅	本体に電源が供給されています。
		消灯	本体に電源が供給されていません。
UPS ALARM	赤	点灯	UPSが停電状態です。
		消灯	UPSは通常運転状態です。
AC OUTPUT CHANNEL 1-8	橙	点灯	電源出力コンセント（1～8）がONの状態です。
		消灯	電源出力コンセント（1～8）がOFFの状態です。
TERMINAL	橙	点灯	RS-232/ターミナルポートを介して通信を行っています。
		消灯	RS-232/ターミナルポートを介して通信を行っていません。
LINK	緑	点灯	10BASE-Tポートのリンクが確立しています。
		消灯	10BASE-Tポートのリンクが確立していません。
COLLISION	赤	点灯	セグメント上でコリジョンが発生しています。
		消灯	セグメント上でコリジョンは発生していません。

電源を投入したが、POWER LED が点滅しない

電源ケーブルが正しく接続されていますか。

電源プラグが商用電源の電源コンセント、またはUPSの電源出力コンセントに正しく接続されているか確認してください。

指定された電源電圧で使用していますか。

本製品の定格電源はAC100V、50/60Hzとなっています。

UPSは正しく動作していますか。

本製品の電源入力ケーブルをUPSに接続している場合は、UPSの電源プラグが商用電源に接続されているか、接続機器の合計容量が指定の容量を超えてないか、バッテリーが充電不足でないか、などを確認してください。

10BASE-T ポートの LINK LED が点灯しない

接続先の機器は正しく動作していますか。

接続先の機器と正しく接続されているか、また接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。

正しい UTP ケーブルを使用していますか。

本製品の 10BASE-T ポートは HUB やスイッチとストレートケーブルで接続することができるカスケード (MDI) ポートです。

ケーブルはカテゴリ 3 以上の UTP ケーブルを使用します。なお、同梱の UTP ケーブルはカテゴリ 5 のストレートケーブルです。PC やワークステーションと接続する場合は、別途クロスケーブルを用意してください。

UTP ケーブルの長さは正しいですか。

2 つのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルの長さは最長 100m と規定されています。なお、同梱の UTP ケーブルの長さは 2m です。

コンソールターミナルから通信できない

正しい RS-232 ケーブルを使用していますか。

本製品の RS-232/ターミナルポートとコンソールターミナルは、クロスケーブルで接続します。なお、同梱の RS-232 ケーブルは 9Pin メス-9Pin メスのクロスケーブルです。

通信速度 (ボーレート) は正しく設定されていますか。

本製品の RS-232/ターミナルポートとコンソールターミナルの通信速度が一致しているか確認してください。なお、本製品の通信速度はデフォルトで 2400bps に設定されています。

リモートシェルでコマンドを実行できない

本製品に IP アドレスは設定されていますか。

リモートシェルはコマンドを実行するホスト名の入力が必要です。本製品の場合、ホスト名には本製品の IP アドレスを指定します。IP アドレスが正しく設定されているかを確認してください。

1 トラブルシューティング

コマンド(ログイン)パスワードが設定されていませんか。

LPGW コマンドでパスワードが設定されていて、かつPWST コマンドでパスワードのステータスが有効に設定されている場合は、コマンドラインの最後に <-p password> を入力する必要があります。

コンソールターミナルからログインする際のログインパスワードとコマンドを実行する際のコマンドパスワードは同一のもので、ご注意ください。

また、PWST コマンドでパスワードのステータスが無効に設定されている場合でも、リモートシェルでPWST コマンド、およびLGPW コマンドを実行する場合に限り、<-p password>の入力が必要となりますので、ご注意ください。

ユーザー名の設定は正しいですか。

リモートシェルはコマンドを実行するユーザー名の設定が必要です。このユーザー名は、各OSにログインする際のユーザー名が使用されますので、ログイン時のユーザー名(以下、ログイン名)と本製品のユーザー名を合わせておく必要があります。

本製品はUNIX、Windows NT(Windows 2000)、Netware(3.X以下)の管理者用のログイン名(root、Administrator、SUPERVISOR)が、デフォルトのユーザー名として設定されています。上記のログイン名でログインする場合は、本製品のユーザー名の設定を変更する必要はありません。

使用するOSのログイン名が上記以外の場合は、そのログイン名を本製品のユーザー名に設定してください。(LGN0 ~ 3 コマンドで設定します。)

通信ソフトウェアを使用する場合は、各マニュアルを参照してください。

UPS の情報が読みとれない

UPS と正しい通信ケーブルで接続されていますか。

現用のUPSがRS-232シリアル信号に対応している場合は、本製品のRS-232/UPSポートとRS-232シリアルケーブルで接続します。

UPSが接点信号に対応している場合は、接点信号/UPSポート接続してください。ケーブルは、いずれもUPSのマニュアルでコネクタの内容を確認の上、別途ご用意ください。

メニューでUPSの設定を行っていますか。

本製品とUPSをRS-232インターフェースで接続している場合は、必ず、メニュー内の[UPS Configuration]でUPSのメーカーとモデル名を指定してください。UPSのメーカーとモデル名を指定していないと、UPSが停電状態(バックアップ運転)になってもUPS ALARM LED点灯しない、UPS関連のコマンドがエラーになるなどの問題が発生します。

本製品とUPSを接点信号インターフェースで接続している場合は、[UPS Configuration]の[UPS Manufacturer]で「GENERIC CONTACT TYPE」を選択してください。

2 仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクターのピンアサインなどを説明します。

コネクタ仕様

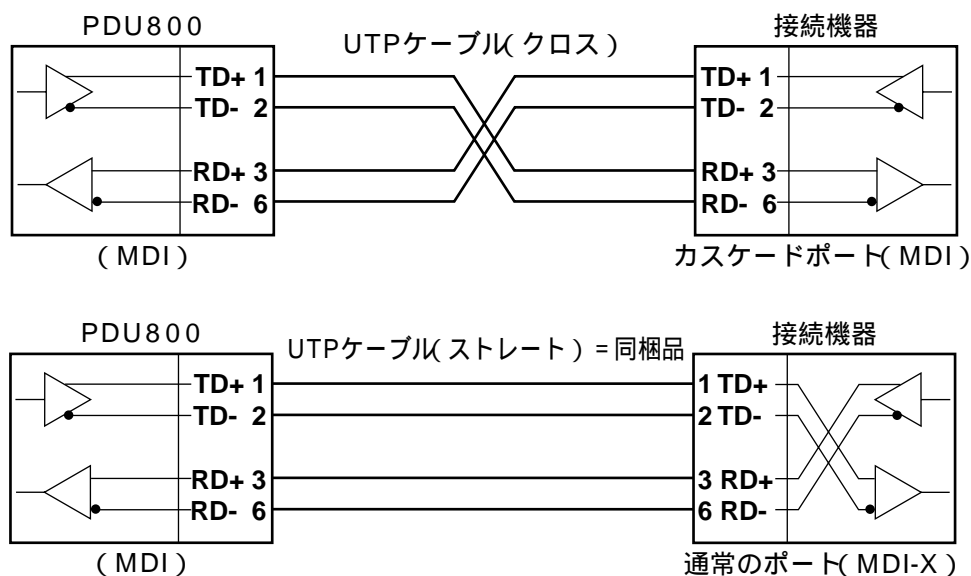
10BASE-T インターフェイス

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。



コンタクト	MDI信号
1	TD+ (送信)
2	TD- (送信)
3	RD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	RD- (受信)
7	未使用
8	未使用

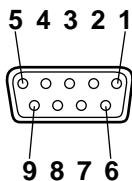
ケーブルの結線は下図のとおりです。



2 仕様

RS-232/ターミナルインターフェース

DSUB 9Pin(オス)タイプのコネクタを使用しています。
同梱のRS-232クロスケーブルの結線は下図のとおりです。

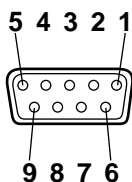


DB9 (メス)	信号名 (JIS略号)		DB9 (メス)	信号名 (JIS略号)
2	RD (RD)	↔	2	RD (RD)
3	TD (SD)	↔	3	TD (SD)
4	DTR (ER)	↔	4	DTR (ER)
6	DSR (DR)	↔	6	DSR (DR)
1	CD (CD)	↔	1	CD (CD)
7	RTS (RS)	↔	7	RTS (RS)
8	CTS (CS)	↔	8	CTS (CS)
5	SG (SG)	↔	5	SG (SG)
9	N/C	↔	9	N/C

RS-232/UPS インターフェース

DSUB 9Pin(オス)タイプのコネクタを使用しています。

DB9 (オス)	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	CD (CD)	未使用
2	RD (RD)	受信データ
3	TD (TD)	送信データ
4	DTR (ER)	未使用
5	SG (SG)	信号グランド
6	DSR (DR)	未使用
7	RTS (RS)	未使用
8	CTS (CS)	未使用
9	N/C	未使用

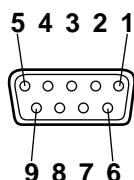


3

付録

接点信号 / UPS インターフェース

DSUB 9Pin(メス)タイプのコネクタを使用しています。



DB9 (メス)	信号入力内容
1	未使用
2	未使用
3	PF (停電信号入力)
4	GND (信号グランド)
5	BL (バッテリー低下信号入力)
6	未使用
7	未使用
8	未使用
9	未使用

使用するケーブルは、接続するUPSによって異なります。

通常、UPSがバッテリー運転時(停電時)に閉(ON)となる無電圧接点出力を本製品の3番ピンと4番ピンの間に、バッテリー低下時に閉(ON)となる無電圧接点出力を4番ピンと5番ピン間にそれぞれ接続します。

UPSがオープンコレクタの場合、3番または5番ピン側がコレクタ(+側)になるように接続します。

2 仕様

本製品の主な仕様

10BASE-Tインターフェース	
サポート規格	IEEE 802.3
電源部	
定格入力電圧	AC100V
入力電圧範囲	AC90V～110V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	15A
平均内部消費電力	3.4W (最大10W)
平均発熱量	2.9kcal/h (最大8.6kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20～60
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0～40
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	
	約432.5(W) X 305(D) X 43.7(H)mm
重量	
	約3.5kg
適用規格	
EMI規格	VCCIクラスA
サポートするMIB	
UPS MIB	RFC 1628
ブラベートMIB	

3

付録

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

1 保証とユーザーサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みにになり、「ユーザー登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「ユーザー登録係」までご返送ください。

「ユーザー登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。


ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。


サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel:  0120-860-772

祝・祭日を除く月～金曜日 9:00～18:00(12:00～13:00は昼休み)

祝・祭日を除く土曜日 10:00～17:00

Fax:  0120-860-662

年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェアについて

製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。

シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

4

保証とユーザーサポート

アライドテレスिस株式会社

PN J613-M5219-00 Rev.A 000518